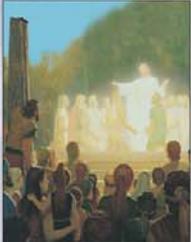


リアホナ



表紙

表紙—「イエスの顔の光が彼らを照らした」ゲアリー・L・カップ画、教会歴史美術博物館および第6回国際美術コンテストの厚意により掲載。

一般

- 2 大管長会メッセージ—わたしたちの宗教のかなめ石
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 18 モルモン書早見表 図1—エテル書、およびニーファイ第一書からモーサヤ書まで
- 25 家庭訪問メッセージ—日々の生活の中で主の愛を感じる
- 26 ヒーバー・J・グラント—苦難の時代の預言者 シャーリー・ミルズ・ジョンソン
- 32 永代教育基金—希望に満ちた明るい光 ジョン・K・カーマック
- 40 末日聖徒の声
今すぐ家に電話しなさい! バーバラ・エルキンズ・キャットマル
何が待ち受けているか、主は御存じでした リンダ・シムズ・デビュア
主はわたしの魂を生き返らせてくださいました セルジオ・リベイロ
- 48 読者からの便り

青少年

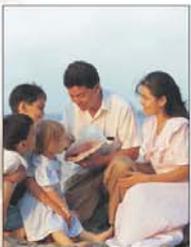
- 7 ポスター どこまでも高く
- 8 生活の規範 十二使徒定員会 L・トム・ベリー
- 14 探し、祈り、信じる
- 44 氷上の夢 シャンナ・ガズナビ

フレンド

- F2 預言者の声—あたえる方が幸いである 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- F4 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから
—ブリガム・ヤングとの出会い
- F6 神殿の祝福 地域幹部七十人 エンリケ・R・ファラベラ
- F8 新約聖書ものがたり—新約聖書ものがたりがおわった後
- F12 分かち合いの時間 わたしはかみの子です シーラ・E・ウィルソン
- F14 信仰の歌 ロンダ・ギブ・ヒンリヒセン

付録

分かち合いの時間ポスター—かぞくはえいえんに



「フレンド」表紙

写真/ジェリー・ガーンズ





「レムエルの谷で石の祭壇を築くリーハイ」クラーク・ケリー・ブライス画

「さて、(リーハイ)は荒れ野を3日の間旅してから、ある谷で、水の流れている川のほとりに天幕を張った。そして……石で一つの祭壇を築き、主にささげ物をして、主なるわたしたちの神に感謝をささげた。」(1ニーファイ2：6-7)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジ
ェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・
B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、
ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワー
スリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリ
ー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュワンダー
顧問:モンティ・J・ブラフ、J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ス
ティーブン・A・ウエスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニコト

編集ディレクター:ピクター・D・ケープ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー、ピピアン・ポールセン、ドン
・L・サル

編集スタッフ:コレット・ネベカー、オヌ、スーザン・パレット、ライア
ン・カー、リンダ・ステール・クーバー、マリオン・ボーター・ガント、
シャナ・ガスナビ、ジェニファー・L・グリーンウッド、リサ・アン・ジャク
ソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカー、
アダム・C・オズリン、ジュディス・M・パーラー、ジョンサン・H・ステイ
ターソン、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリー、ジャネット・ト
マス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーテル、キンバリー・ウエッ
ズ、モニカ・ウイグス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン、スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンブラット、フェイ・P・アンドラス、
C・キンボール・ボット、ハワード・ブラウン、トーマス・S・チャイルド、レ
ジナルド・J・クリステンセン、ブレント・クリスティン、ケリー・リン・
C・ヘリン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピ
ーターソン、ランドール・J・ピクストン、マーク・W・ロビンソン、ブラッ
ド・ティアア、カリ・A・トッド、クラウド・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振
替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/
00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただ
ければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送につ
いてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-
6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話
03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
Eメール: cur-iahona-image@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」
の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア
語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア
語、キリバス語、クアアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、
スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タチ語、
タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、
日本語、ルウエー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィジー語、フィンラン
ド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル
語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア
語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines January 2004.
Japanese. 24981 300

For Readers in the United States and Canada:
January 2004 no. 1 IAHOA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729)
is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50
East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is
\$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage
Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days'
notice required for change of address. Include address label from a recent
issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub
scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.
Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,
MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste
Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

家庭の夕べのための アイデア



「生活の規範」8ページ—

熱心に探し、常に祈り、信
じるなら、「万事があなたが
たの益となるようにともに働
く」でしょう。しかし、約束
された祝福が速やかに与えられな
かったとしたらどうでしょうか。家族に
尋ねてください。それからL・トム・ペ
リー長老の答えについて話し合っ
てください。

「ヒーバー・J・グラント—苦難 の時代の預言者」26ページ—

ヒーバー・J・グラント大管長の模範から、多
くを学ぶことができます。グラント大
管長の生涯から感銘を受けた出来事
を一つ選び、どうすればその模範に従
うことができるか家族で話し合っ
てください。

「何が待ち受けているか、主は御存 じでした」41ページ—

熱心に祈った
にもかかわらず、主がその願いを聞い
てくださらなかったことがあるか家族
に尋ねてください。リンダ・シムズ・デ
ビュー姉妹の話を一緒に読みましょ
う。主はデビュー姉妹の祈りに、彼女
が求めたとおりにはこたえてくださ
いませでした。その理由を話し合っ
てください。

「氷上の夢」44ページ—

クリス・オ
ブザンスキーは、2006年冬季オリンピ
ックが終わってから伝道に出ようと思
っていました。しかし、御霊を通して
19歳で伝道に出るべきだと感じたの
です。家族一人一人に、どのような人
生計画を立てているか尋ねてくださ
い。御霊に促されたなら、自分の計画
を進んで犠牲にするのでしょうか。犠牲
と信仰が密接にかかわり合っているの
はなぜでしょうか。

「あたえる方が幸いである」

F2ページ—トーマス・S・
モンソン副管長が出席した日
曜学校のクラスについて話し
ます。自分の持ち物をもっと
必要としている人に上げるために何が
できるでしょうか。家族一人一人に、
今週できることを一つ書いてもらいま
す。次の家庭の夕べで、だれかに何か
を上げたときに、何を考え、どんなこ
とを感じたかを尋ねてください。

「信仰の歌」F14ページ—

子供た
ちに、怖かったり、緊張したり、苦しか
ったり、悲しかったりしたことはあるか
尋ねてください。それからこの話を一
緒に読みましょう。初等協会の歌は心
が落ち着くので、困ったときには歌う
ように勧めてください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略			
愛	25, F2	自立	32
証	2, 48	信仰	
イエス・キリスト	25	8, 14, 26, 40, F14	
祈り	7, 8, 14	神殿	F6
癒し	40	新約聖書	F8
永代教育基金	32	救いの計画	F12
教え	1	スミス、ジョセフ	
音楽	F14		2, F8
回復	2, F8	聖文研究	
家族関係	F6, F12		2, 8, 14, 18
家庭の夕べ	1	聖霊	40, 44
神の属性	F12, F14	伝道活動	44
犠牲	32, F2	粘り強さ	26
希望	32	背教	F8
逆境	40	奉仕	F2
グラント、ヒーバー・J		ミューチャル	8, 14
	26, F4	モルモン書	2, 18
使徒	40, F8	友情	F4
指導性	32	預言者	26, F4
従順	26, 44		



わたしたちの宗教の

かなめ石

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

多くの歳月が過ぎた今でもよく覚えていることがあります。母の愛読書を手にとったときのことです。それは使い古したモルモン書でした。ほとんどのページに印が付けてあり、丁寧に扱っていたのですが、ページによっては端が破れ、しわが寄り、表紙は擦り切れていました。母は、モルモン書がほかのどの本よりも自分を神に近づける本だということを、だれからも教えてもらう必要はありませんでした。すでによくモルモン書を読んで、神に近づいていたからです。母はモルモン書を読み、研究し、書かれている事柄について祈り、またモルモン書を用いて福音を教えました。少年であったわたしは母のモルモン書を手にし、母が喜んで証し^{あかし}から愛したその書物の偉大な真理を、母の目を通して理解しようとしていました。

しかしながら当時のわたしは、労せずして得た遺産であるモルモン書から深遠なメッセージを酌み取ることはできませんでした。実際、誠実な心と強い目的意識なしに、また、研究と祈りを通して明らかにされることなしに、この偉大な書物を理解できるとは思いません。わたしたちは、この本が真実であるかどうか、単に尋ねるだけでなく、イエス・キリストの御名によって尋ねる必要があります。モロナイは言いました。

「これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがた

に勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。」¹

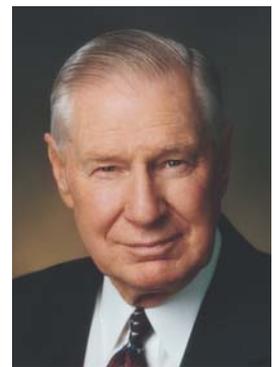
なぜ、かなめ石なのか

モルモン書の元になった金版を翻訳したジョセフ・スミスは、次のように述べています。「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」²

ある辞書では、かなめ石をこう定義しています。「アーチの中央部に据えるくさび形の石で、ほかの石が動かないように固定している。」また、2番目の定義として「物事の全体を中央で支えているもの」³とあります。

モルモン書はかなめ石です。なぜなら、永遠の原則と教えを確立し、互いに結び合わせて、救いの基本的な教義を完成させているからです。それは、聖典という王冠の頂を飾る宝石です。

モルモン書がかなめ石と呼ばれるのは、ほかにも理由があります。すでに参照したモロナイの約束では、神はキリストを信じて真心から願うすべての人に、モルモン書が真実であることを示してくださいます。⁴ここに、自然に結ばれていく鎖の中の重要な環^わがあります。



実際、誠実な心と強い目的意識なしに、また、研究と祈りを通して明らかにされることなしに、この偉大な書物を理解できるとは思いません。

モルモン書の確固たる証は、「イエスがキリストであり、永遠の神であられる」⁵ことを確信させ、ジョセフ・スミスが神から召され、天の御父と御子にまみえたことを霊的に立証しています。これらのことをはっきりと理解したうえで考えるならば、教義と聖約と高価な真珠が聖書やモルモン書と対を成す聖典であるという証も、受け入れることができるはずです。

以上はすべて、イエス・キリストの福音の回復と、末日聖徒イエス・キリスト教会すなわち絶えず啓示を受ける生ける預言者により導かれるこの教会の神聖な使命とを確認するものです。こうした基本的な真理から、完全な福音の救いに関する様々な原則を理解できるようになるのです。

モルモン書は何であり、何でないか

モルモン書が何でないかを知ることも大切です。モルモン書はその記述の多くが歴史的な内容ですが、単なる歴史ではありません。モルモン書のタイトルページに記されているように、紀元前後のアメリカ大陸に住んでいた民の記録から取られたものです。モルモン書は、「戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記されたもの……である。……また、ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。」

ジョージ・Q・キャンノン第一副管長(1827-1901年)は、次のように述べています。「モルモン書は地理のテキストではない。地理について真実を教えるために書かれたものではない。様々な風土や都市の状態について記されているが……それはこの書物の教義的な部分や歴史的な部分に関連して付け加えられた説明にすぎない。」⁶

では、モルモン書とは何でしょうか。モルモン書は、イエスの降誕と生涯、十字架でのはりつけ、メシヤとして贖い主としての業



に、確かな証拠を与えるものです。ニーファイはモルモン書についてこう記しました。「地の果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉……だからである。」⁷

ニーファイと弟のヤコブ、それにイザヤの3人は、メシヤについて力強く預言し、イエスの降臨を宣言しました。ニーファイはイザヤの言葉を広範囲にわたって引用しています。それは、イザヤがメシヤの降臨を預言した旧約聖書の重要な預言者だからです。

モルモン書は聖書の記録が真実であることを立証します。⁸ また、「聖文が真実であること……を、世に」⁹ 証明しています。モルモン書は、平和と救いの完全な福音が確立されることを預言しています。永遠の旅路に必要な原則と導きをわたしたちに与えるために書かれました。

モルモン書が持つ究極のメッセージの一つは、旧約聖書や人類の歴史全体にも言えるのですが、人は自分の力だけで完成に到達することはできないということです。もう一つ、モルモン書の様々なページから声高らかに宣言されるメッセージがあります。しばしば人々の不興を買い、厳しい命令だと思われた「悔い改めなさい、そうでなければ滅びるであろう」というメッセージです。預言者のこの声に耳を傾けたとき、モルモン書の民は繁栄しました。しかしその声を忘れたとき、滅びたのです。

ガラテヤ人への手紙の中で、パウロは言いました。「律法は……わたしたちをキリストに連れて行く養育掛^{がかり}となったのである。」¹⁰ モルモン書の預言者たちによって保存された記録と、東半球からもたらされ、現在聖書と呼ばれる聖典は、アピナダイの言葉を借りれば、「神と、神に対する義務を思い起こさせるために」¹¹ 与えられました。ですからモルモン書は、わたしたちをキリストに連れて行

く養育掛なのです。¹²

聖文と個人の証

この神聖な書物を理解する鍵^{かぎ}は、非常に霊的なものです。霊的な理解よりも世俗的な知識にとりつかれていると、内容を理解するのが難しくなります。

ジョセフ・スミスが神の助けなしに、この複雑で深遠な書物を書いたとは、わたしには考えられません。開拓者の無学な少年がモルモン書の中の偉大な真理を偽造し、霊的な力を自ら生み出し、その中のキリストの証を偽って書くようなことは絶対に不可能です。モルモン書そのものが、それは神の聖なる言葉であると証しているのです。

旧約聖書や新約聖書の教えについて言及している箇所は、モルモン書全体を通して非常に多いので、論理的に考えれば、人間の知恵でそのすべてを思いつくのは不可能であるという結論に達します。しかし、論理よりももっと大切なことは、聖なる御霊^{みたま}の確認によってモルモン書に書かれていることが真実であると知ることです。

すべての聖典は、イエスについて証している点で一つです。モルモン書の預言者ヤコブは、こう言いました。「このキリストについて述べることなしに書き記したり預言したりした預言者は一人もいません。」¹³ 聖典について詩篇の作者は次のように歌いました。「あなたのみ言葉はわが足のとももしび、わが道の光です。」¹⁴

モルモン書は義だけを高めてくれます。では、なぜモルモン書に敵対する人がいるのでしょうか。確かな理由の一つは、モルモン書が天使によってジョセフ・スミスに渡された金版から翻訳され、選ばれた証人以外はだれもその金版を見たり、触ったりしていないからでしょう。もう一つ考えられることは、モルモン書の大部分がここアメリカ大陸の古代の預言者たちが残した記録であると主張されているからでしょう。

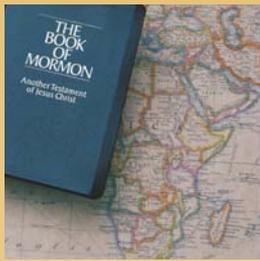
モルモン書の偉大な価値は、救い主御自身



モルモン書の元になった金版を翻訳した

ジョセフ・スミスは、次のように述べています。

「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」



神 御自身が
モルモン書に
ついて
次のように承認して
おられます。
「あなたがたの主、
あなたがたの神が
生きているように
確かに、その書は
真実である。」
わたしたちが
モルモン書に対する
証^{あかし}を得られるように
祈っています。

が宣言しておられます。第三ニーファイでこう言われました。「これから述べるのがわたしの教義であり、父がわたしに与えてくださった教義である。」¹⁵

贖い主はモルモン書の中でさらに宣言されました。「見よ、わたしはあなたがたに、わたしの福音について告げた。」¹⁶

わたしは特別な証人として証します。イエスはキリストであられ、その降臨についてニーファイとイザヤが預言したことは実際に成就しました。ニーファイのように、「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し」¹⁷ます。

わたしは御霊による証からわき出る確信を

もって証します。これらの啓示された事柄について、実際に目で見るとははっきりと知ることができます。目で見たり、耳で聞いたりするよりも、もっと確かな知識を得ることができます。神御自身がモルモン書について次のように承認しておられます。「あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である。」¹⁸

今わたしは、使い古した貴重なモルモン書から母が理解したことを、わたし自身の理解の目を通してさらにはっきりと知ることができます。わたしたちがモルモン書の偉大な真理に対する証を得て、その真理に従ったふさわしい生活を送れるように祈っています。わたしたちの宗教のかなめ石が、全地を揺り動かすほどの真理の重みを負って固く据えられていることを証します。■

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその例です。

1. モルモン書に対する証や愛によって自分の生活に影響を与えてくれた人についてどのように感じているか、家族の人々に話してもらおう。

2. 預言者ジョセフ・スミスはモルモン書について、「人はその教えを守ることに、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」と語った。ジョセフ・スミスがこの言葉によって伝えようとしたことについて、深く考えるように家族の人々に言う。

3. 家族の子供や青少年に、ファウスト副管長はモルモン書に対する自分の証を母親から与えられたかどうか尋ねる。次のことを説明する。母親は証を得るために努力し、モルモン書をよく研究した。しかし驚くべきことには、自分の証を子供たちにそのまま受け継がせることはできなかったということである。人は研究と祈りを通してどのようにモルモン書に対する証を得られるだろうか。このことについて話し合う。

4. 家族の人々にモルモン書の副題は何か尋ねる。以下のことを説明する。今年、モルモン書を読み進めるとき、イエス・キリストに対する多くの預言者の証を読み、どうしてモルモン書の副題が「イエス・キリストについてのもう一つの証」となったのか分かるようになる。2ニーファイ25：23、26を声に出して読む。今の生活の中でイエス・キリストについて証するにはどうしたらよいか尋ねる。

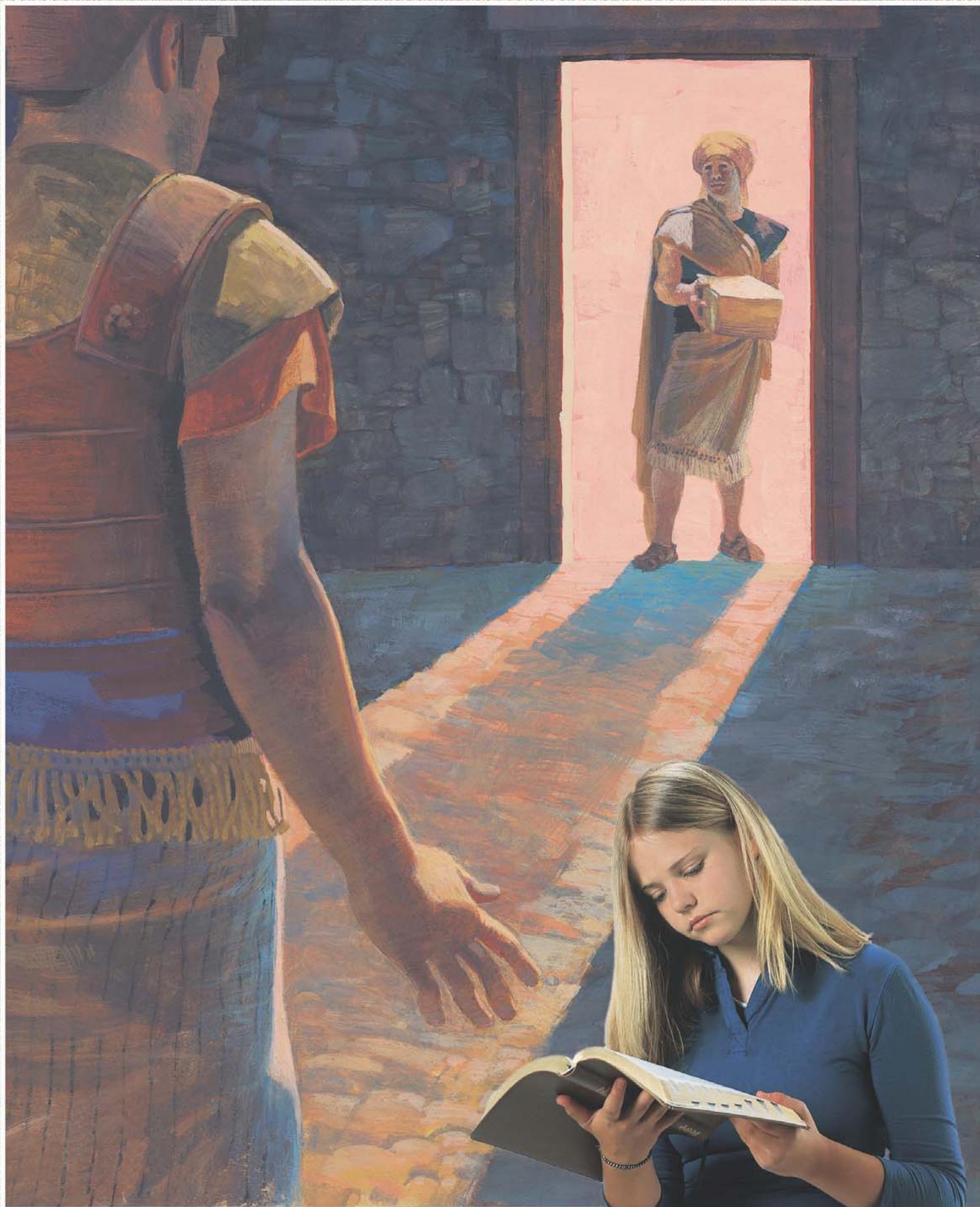
注

1. モロナイ10：4、強調付加
2. モルモン書序文
3. *The American Heritage Dictionary of the English Language*, 第4版(2000年), "keystone"の項, 961
4. モロナイ10：4参照
5. モルモン書タイトルページ
6. "The Book of Mormon Geography," *Juvenile Instructor*, 1890年1月号, 18
7. 2ニーファイ33：10
8. 1ニーファイ13：40参照
9. 教義と聖約20：11
10. ガラテヤ3：24
11. モーサヤ13：30
12. モーサヤ13：27-35参照
13. モルモン書ヤコブ7：11
14. 詩篇119：105
15. 3ニーファイ11：32
16. 3ニーファイ27：13
17. 2ニーファイ25：26
18. 教義と聖約17：6

どこまでも高く



ひざまずいているときにこそ、靈的に最も高くなれるのです。
(教義と聖約19:38参照)



生活の規範

「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。
……万事があなたがたの益となるように
ともに働くであろう。」(教義と聖約90:24)

教 会機関誌は十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老に、2004年度若い男性および若い女性のミューチャルのテーマである教義と聖約第90章24節について見解を伺いました。

この聖句は4つに分けることができるようです。最初の部分「熱心に探し」とは、どういう意味でしょうか。

ペリー長老——答えを得るために、ただ探すのではなく、熱心に探す必要があると主はおっしゃっています。つまり努力が伴わなくてはなりません。答えを得ようと努力する必要があります。答えを見つける最良の源として、聖文があります。そして熱心に探すとは、答えがはっきり分かるまで、祈りながら、信仰をもって何度も読み返すことなのです。

わたしはモルモン書のニーファイ第一書第3章から第4章で起きたことについてよく思いを巡らします。リーハイは真鍮しんちゆうの版として知られている記録をラバンから手に入れるために、息子たちをエルサレムに帰しました。記録は大切なものです。人々が不信仰に陥らな



ニーファイは
信仰によって
真鍮しんちゆうの版を
手に入れました。
同じように、
若人も信仰をもって
行動すれば、
導きとなる知識を
授けられるのです。

いために必要でした。

最初の試みでは、リーハイの息子たちは記録を手に入れるために、運に任せました。くじを引くと、レーマンが選ばれました。レーマンはラバンと話しに行きましたが、ラバンは怒ってレーマンを追い出してしまいました。もし若人が聖文の勉強を成り行きに任せ、つまりミューチャルやセミナー、日曜学校のクラスで行き当たりばつりに頭に入れるだけだとしたら、自分で、または家族で聖文を勉強するときのような意義深い勉強にはなりません。福音の知識ほどの重要な宝を、成り行きに任せることなどできません。

次にリーハイの息子たちは世のものをういて真鍮の版を買い取ろうと試みました。ラバンは召し使いを使って、息子たちを殺そうとしました。息子たちは、貴重品を置いて逃げるのが精いっぱいでした。現代の若人は、世のものから幸福を見つけようという気持ちになるかもしれません。テレビを見たり、インターネットに接続したりする度に、世俗的な考え方にさらされます。しかし遅かれ早かれ、そのような考え方には、求めている幸福へと

導く力がないと悟ることになります。

最後にニーファイは、信仰によってしか記録を手に入れる方法はないと心を決めました。そう決めると、ニーファイは御霊に導かれてどうするべきかが分かるようになり、すばらしい祝福がもたらされました。聖文を手に入れ、リーハイの家族は聖文から導きを受けながら荒れ野を旅することができたのです。同じように、若人も信仰をもって行動すれば、導きとなる知識を授けられるのです。

熱心に探すのは、聖文だけでよいのでしょうか。

ペリー長老——真理を求めてください。そして熱心にという言葉をお忘れなくください。中途半端にという意味ではありません。力を尽くしてという意味です。御霊の促しを感じることができるよう、戒めを守ることも大切です。熱心であることには、ふさわしさを保つということも含まれます。

求めていると、どんな有益なことが得られるのでしょうか。

ペリー長老——聖文は必要な導きを与えてくれます。聖文は、預言者を通して主が明らかにされた御言葉だからです。聖文の言葉は様々な時代、時期、年代に啓示されてきました。そのため聖文は、これまでに起きた出来事や、真理が回復されたことについて、より広い見地から理解するすばらしい機会を提供してくれます。日々聖文を研究することで、聖文の中に自分自身に当てはめることのできる規範（パターン）を見つけることができます。例えば、従順は祝福という実を結ぶことが理解できるようになるのです。

この節の次の部分は「常に祈り」です。そのためにはどうしたらよいのでしょうか。

ペリー長老——いつも心に祈りの精神を保ってください。いつも声に出して祈る必要はありません。しかし一日のうちで主の導きや

指示が必要のない時間などないに等しいものです。主がそばにいてくださることを実感できるのはすばらしいことで、安心感を与えてくれます。主は四六時中そばにいてくださるのでしょうか。そうです、いつでもわたしたちのためにいてくださいます。

合衆国海兵隊での経験を思い出します。長くきつい行軍から帰って来たときのことでした。わたしたちは疲れ、空腹で、のども渴いていました。夕食まで待てないわたしたちに、調理師がチキンサラダを作ってくれました。何とおいしそうなサラダだったことでしょう。友達とわたしだけは、いつもすぐには食べず、食べる前に食事の祈りをささげていました。ほかの人たちがむさぼるように食べている間、わたしたちは祈っていたのです。何時間もしないうちに、二人を除く全員が食あたりを起こしました。その二人とは、すぐに食べず、主に感謝の祈りをささげたわたしたちのことでした。

もちろん、たいていの祈りはそのような劇的な結果を招くわけではありません。ほとんどの場合、答えとは正しいことに対する静かで穏やかな気持ちです。わたしはこれまでの人生で、何度も祈りによって慰めと確信を得てきました。

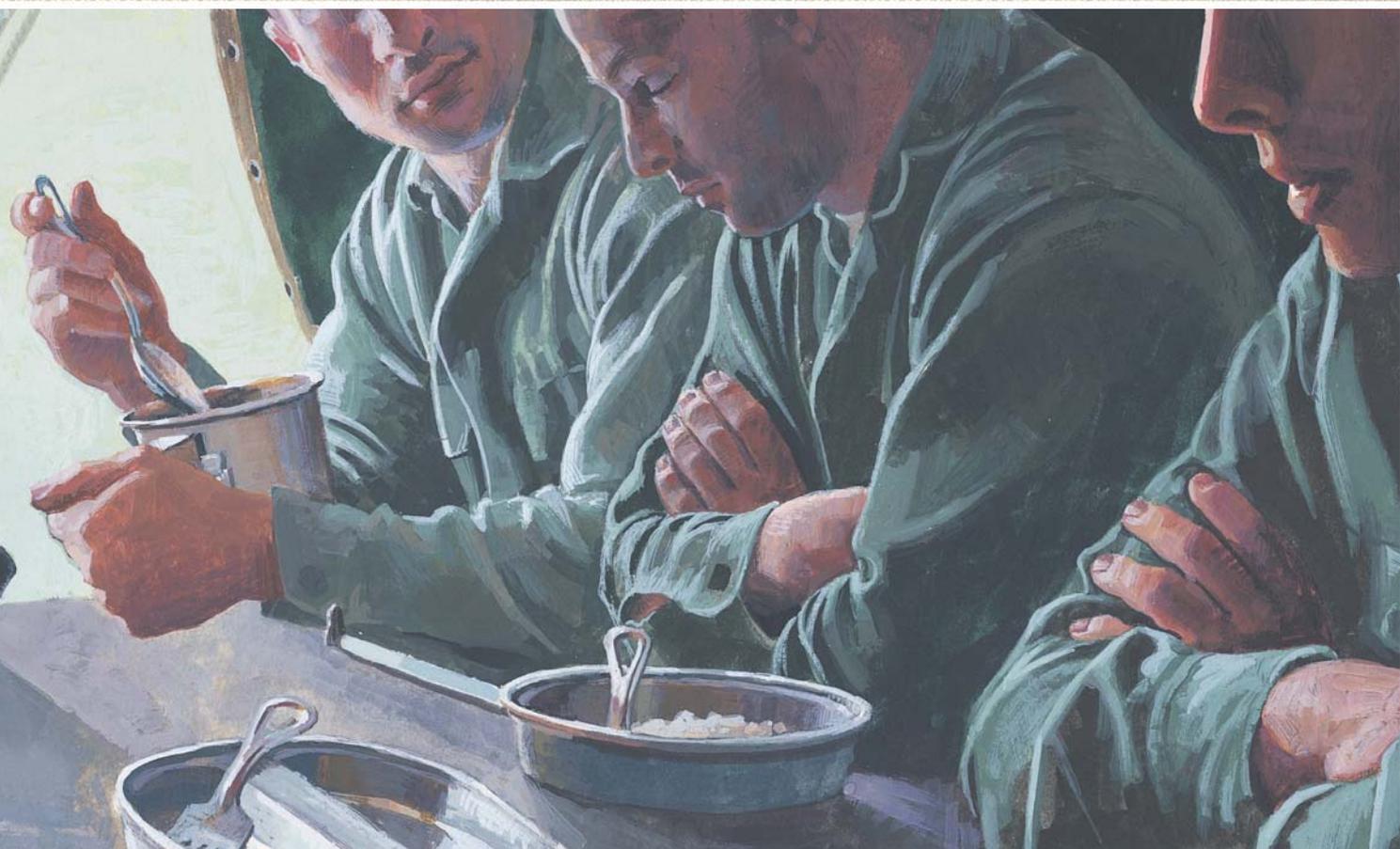
また、感謝をささげることをお忘れなくしなくてはなりません。天の御父は多くの機会と祝福を与えてくださいます。祈りの大半は、主から頂いたものに対する感謝を表すものでなくてはなりません。

どうすれば心の中で祈る習慣を身に付けられるのでしょうか。

ペリー長老——おもに

**合衆国海兵隊で
友達とわたしだけは
いつも食事の前に
祈りをささげました。
ほかの人たちが
むさぼるように
食べている間、
わたしたちは
祈っていたのです。
心の中で
祈ってください。
主がそばにいて
くださることを
実感できるのは
すばらしいことで、
安心感を与えて
くれます。
主は四六時中そばに
いてくださるのです。**





両親の模範に従うことで身に付けばいいと思っています。若人にとって祈りが日常生活の一部になれば、主に近づくことに対して温かく、安らいだ気持ちを感じるでしょう。子供にとって祈りとは簡単に得られる慰めであり、簡単に身に付く習慣です。

そのような状況で生活していない人に、どのようなアドバイス頂けますか。

ペリー長老—そのような人にも、福音に従った生活を送る機会はいつでも与えられています。教会は祈る機会を数多く提供しています。神権指導者、ミューチャル指導者、若い男性および若い女性指導者が導くことで、祈りの習慣は身に付いていくと思います。そうすれば幼少時代に祈りの習慣がなかったことの埋め合わせとなり、その習慣を今、身に付けることができます。そしてさらに進歩し、主から何を受けてきたかを理解することができるでしょう。

「信じて」いることはどうして大切なのでしょうか。

ペリー長老—わたしはいつでも信じてきたと思います。高潔な父は、わたしが生まれてから18年間監督でしたが、主を信じ、主を信頼し、神権の召しにおいて主に従っていました。母は強い確信を持ち、自分の内にある証あかしに頼っていました。両親の確信によって、わたしは心の中に信

じたいという望みを抱くようになりました。そしてそれは自分自身の証を得るために大切なことでした。

自分自身の証を得るにはどうしたらいいでしょうか。

ペリー長老—だれでも自分自身の証を得なければなりません。人の模範は、最初の一步を踏み出すうえで大きな意味があります。信頼している人が神聖な証を述べるときに、確信を得ることができます。そして「信じている」ようになりたいという望みを自然に抱くようになります。

戒めを守って生活することも大切です。主の律法を知らなくてはなりません。そして戒めは有益なものであり、祝福をもたらすことを証明するために、戒めに従って生活しようと努める必要があります。救い主はこのように言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:17)

わたしはよくこのように考えることがあります。「もし福音がなく育っていたらどうなっていたらだろうか。後で福音を聞いたとしたら、どういう反応を示しただろうか。」もしそうだとしたら、福音に耳を傾け、正しく評価し、祈ることができるくらい鋭い感性を備えていられればと思います。

証は突然どこからともなく降くだってくるものではないと思



っています。証は常に育てていくものです。主の王国で仕える機会があり、主がどのようにその民を祝福して下さるかを見て、わたしの証は強くなる一方です。

ほかには何をすべきでしょうか。

ペリー長老——^{せいさん}聖餐を受けることの重要性を決して忘れてはなりません。軍隊での経験をもう一つ思い出しました。ある期間一緒に過ごしたグループがありました。兵役中、毎週日曜日には聖餐会を開きました。水筒の水を使ったこともありました。パンの代わりに携帯用に支給される乾パンを使ったこともありました。どうであれ、聖餐を受けました。一緒にいなかった友人たちは、長い期間聖餐を受けることができず、そのためあまり信仰を堅持するのが大変だったようです。

義にかなった末日聖徒の仲間を探し求めるべきです。そして毎週日曜日には忘れずに、主との誓いと聖約を新たにすべきです。聖餐を受けることは、一人一人に影響を及ぼします。そして各自が祝福を受けるにふさわしい生活を送り、自らの果たすべきことを行うならば、主は御自身の義務として、求める祝福を授けてくださることに気づくようになります。

いつ、そしてどのように「万事が【わたしたちの】益とな

るようにともに働く」ことを望めばいいのでしょうか。

ペリー長老——待つことがすばらしい祝福となることもあります。何かに向かって努力すれば、報いを得たときに感謝する気持ちも増すでしょう。人生のあらゆる時期には様々な段階があります。段階を踏むにつれて人は成長していきます。そして、教会で教わったことを実践することで達成感が増していくでしょう。

正しいことを行うときには、聖なる御霊が心の中で力強く証します。別の方法では得ることのできない喜び、平安、満足感が得られるのです。義にかなった生活を送るならば、ほかのことは、適切な結果が得られるものです。思っていたこととは違う結果になるかもしれません。しかし結局は好都合となるでしょう。祝福は主がお決めになったときに授けられることを忘れないでください。

人生に降りかかる悲しい出来事についてはどうでしょうか。悲しい出来事が益となるように働くとはどういうことでしょうか。

ペリー長老——わたしは妻も娘も亡くしています。つらいことでしたが、証が揺らぐことはありませんでした。正しい道を歩んでいれば試練を乗り越えることができると、身をもって経験してきました。悲しい出来事を経験しながらも心の安らぎを得ることができますし、達成することで

兵役中、
毎週日曜日には
聖餐会を
開きました。
水筒の水を使った
こともありました。
パンの代わりに
乾パンを使った
こともありますが、
聖餐を取りました。
聖餐を取ることの
価値を決して忘れ
ないでください。

大きな満足感が得られます。信仰をもって耐えることは、御霊に近づく経験となります。

もし「熱心に探し、常に祈り、そして信じて」いるならば、そう簡単に道から外れなくなります。主はそのことを約束してくださいました。主に背を向けると、自然に御霊に従う力が衰えていきます。人生のまことの喜びを経験する機会を失ってしまいます。人は主に従うと栄え、成長し、困難の中にあっても主の計画に従うことにより、すばらしいことが起きるのです。

自分がどういう存在であるか、自分が地上でなすべきことが何であるか、また忠実な者たちに天の御父がどのような祝福を永遠にわたって約束されたかを知ることによって、大きな満足感が得られます。これ以上の慰めがほかにあるでしょうか。

すぐに結果が表れないのであれば、約束が成就したことをどうすれば知ることができるのでしょうか。

ペリー長老——地上に来た目的の一つは忍耐、継続、そして義にかなった生活について学ぶことです。結果を見るまでに時間がかかるかもしれません。

しかし善良な生活をするならば、喜びと幸福を感じ

るでしょう。それが信仰というものです。

最後に、主が教義と聖約第90章24節で与えてくださった指示を若人が生活に取り入れることができるように何かご提案を頂けませんか。

ペリー長老——書かれてあるとおりに行ってください。これは主からの約束です。主が皆さんに約束されたことに注目してください。「万事があなたがたの益となるようにとにも働く」のです。何という祝福でしょうか。それはすばらしい若人の皆さんに主が約束されたことです。そして主が約束を破られることはありません。

わたしはこれまで、すばらしい、胸躍するような充実した人生を送ってきましたので、教会の若人の皆さん一人一人にも同じような祝福を受けてほしいと願っています。わたしは学生時代、決して優等生だったわけではありません。バスケットボールの最優秀選手だったわけでもありません。高校生のころ、自分は大したとりえがないと思っていました。それでも人生はすばらしく、充実していました。ですから、若人の皆さんもそう感じられるように、わたしはあらゆる努力をしたいと思っています。

毎日の生活がいつもうまくいっているわけではありません。しかし励まし、導きを与えてくださる主がともにおられない日はないと思っています。一日の終わりには、幸せな気持ちで、また明日も頑張ろうと意欲を感じていると思います。そしてこのような生活はすばらしいものです。■

聞き手／リチャード・M・ロムニーおよびジャネット・トーマス





探し、祈り、 信じる

今年のミュッチャルのテーマに関する、中央若い男性および
中央若い女性会長会からのメッセージです。



最も恵み豊かな約束

教義と聖約第90章24節には、主の最も恵み豊かな約束の一つが書かれています。しかし、必要な条件を満たさないかぎりその約束は果たされません。

皆さんはまだ若く、経験が少ないため、「万事があなたがたの益となるようにともに働く」のかどうか、よく分からないかもしれません。この約束が真実かどうかを確かめるには、生涯にわたって主を信頼することが求められます。

わたしたちは、それが真実であることを証^{あかし}します。そして皆さんは、勤勉であり、よく祈り、信仰を持ち、従順であることによって、使徒パウロが救い主の「尊く、大いなる約束」と呼んだ、あらゆる祝福を受けるにふさわしくなるのです(2ペテロ1:4)。

中央若い男性会長会
F・メルビン・ハモンド長老(中央)
リン・G・ロビンズ長老(左)
ドナルド・L・ホールストロム長老(右)

2004年 ミュッチャルの テーマ

「熱心に探し、
常に祈り、そして
信じていなさい。

……万事があなたが
たの益となるように
ともに働くであろう。」
(教義と聖約90:24)



霊的な守りを得る方法

霊的な守りと成功を得る方法は次のとおりです。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。」この方法によって、モーサヤの息子たちは強められました(アルマ17:2-3参照)。そして皆さんにとっても守りとなるでしょう。

話を準備したり、活動を計画したりするとき、また、学校や家庭においても、このテーマを使ってください。そうするとき、聖霊は皆さんを導いてくださいます。「万事があなたがたの益となるようにともに働く」と約束されているのです。

わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんのために祈っています。そして皆さんを信頼しています。この方法を試してみてください。きっとうまくいくでしょう。

中央若い女性会長会
スーザン・W・タナー(中央)
ジュリー・B・ベック(左)
イレイン・S・ダルトン(右)

世界各地の青少年が、ミューチャルのテーマが 自分にとってどのような意味をもつか語ってくれました。

熱心に探す

この聖句を読むと、キリストのもとに来るためにはどのような人になる必要があるか分かります。神の王国に帰るには、熱心に知識を探し、助けを祈り求めなければなりません。そして何よりも大切なのは、主を心から信じることです。そうすれば、すばらしい祝福を受け、永遠の命を受け継ぐことができます。もちろん、バプテスマのときに交わしたすべての聖約を守ることも必要です。

ロシア・ウラジオストック地方部、
ウラジオストック第1支部
ウラジーミル・プロスコリン(16歳)

この教会は、「熱心に探す」ことを決意した一人の少年を通して回復されました。預言者ジョセフ・スミスは、わたしたち全員に模範を示してくれたのです。聖文を調べ、それと同時に自分の心に尋ねることによって、探し求めている答えを見つけることができるでしょう。

オクラホマ州タルサステーク、ジェンクスワード
カイル・クルベロ(17歳)

福音を理解するためには、熱心に探すことが必要です。人から質問をされて答えられないときは、福音の基本的な原則を調べます。また同じ質問をされたときに、必ず答えられるようにしたいからです。

ミシガン州ブルームフィールドヒルズステーク、
ウォールドレイクワード
メラニー・グラント(16歳)

わたしの趣味はパズルです。パズルをするときは、ピースを一つずつ置いていきます。最後のピースをはめ終わるまで、集中しなければなりません。これは、福音を中心とした生活にも似ています。常に集中しなければならないのです。いつも神の道を求め、一生懸命に働き、神にすべてをゆだねます。

台湾台北西ステーク、タイペイ雙和第1ワード
リー インリン 英林(19歳)

話や活動、
そして何よりも
日々の生活の中で、
このテーマを
使いながら学ぶとき、
ミューチャルの
今年のテーマについて
自分の経験を
語る事が
できるでしょう。

この聖句を読むとき、福音を必要としている人々を熱心に探す必要があることについて考えます。わたしは、そのような人々や宣教師のために祈ります。また教会員が、自分の知っていることを話したり、福音によってどれだけ幸せであるか示したりすることも大切です。

イギリス・リバプールステーク、リバプールワード
サラ・ホアレ(12歳)

常に祈る

あるとき家族の祈りの中で、いちばん下の弟が「一日に感謝します。天気が…」というありふれた祈りをささげていました。けれども、この5歳の弟が「いつもお父様とお話できることを感謝します」と言ったとき、わたしは長い時間座って、この知恵ある言葉を思い巡らしました。それからというもの、わたしは朝と夜寝る前に個人の祈りをささげるようになりました。以前よりも幸せになり、御霊をもっと頻繁に感じるようになりました。疑問や疑いに対してすぐに答えを受けようになり、自分が霊的に成長していると感じました。

テキサス州ヒューストン東ステーク、
ベータン第1ワード
アンドレア・ミンソン(14歳)

天の御父は、祈りを通して様々な機会を与えてくださいます。試練に立ち向かうために導きを求める機会、礼拝する機会、感謝を述べる機会、そして最も大切なのは、御父と御子のもとに来てその愛を受ける機会です。

アラスカ州ワシラスステーク、イーグルリバー第3ワード
ポール・ブルスエラス(17歳)

「常に祈る」という言葉は、わたしにとって何よりも大切な言葉です。教育を受けている間、ずっと助けられたからです。天の御父は、わたしたちが祈り求め、努力するときに、必ず助けてくださいます。

ニュージーランド・オークランド・ヘンダーソンステーク、
サニーベールワード
シャンテル・バーゲス(16歳)

時間や場所、幸せであるかないかにかかわらず、祈りは平安と幸福をもたらします。わたしは今高校生なので、誘惑はますます強くなってきていますが、祈りによって乗り越えています。

フアリエン
台湾花蓮 地方部、ルイエー
チエン シャン
鄭 善 (15歳)

信じる

信じることは、強い証を得るための欠かせない一歩です。理解しなくても、信じることはできます。でも、御霊の助けと促しによってすべてのことをよりよく理解できるようになります。

テキサス州ルイビルステーク、ルイビル第2ワード
ミッシェル・プレイ(16歳)

クリスマスの時期に、わたしはホームティーチングに行こうとしていました。そのとき、バイオリンを持って行って、担当家族のためにクリスマスキャロルを弾くようにという導きを受けたのです。最初の2家族のために弾いたときは、なぜそのような導きを受けたか分かりませんでした。そして(あまり活発でない)最後の家族を訪問したときに、その理由がはっきりしました。バイオリンを弾いたとき、彼らが感動しているのが分かったのです。御霊がそこにありました。その家族は宣教師から学び始めました。

テキサス州オデッサステーク、ミッドランド第2ワード
マーティン・ペレズ(18歳)

この聖句の「信じる」という言葉は、わたしにとってとても深い意味があります。3年前、建設作業中の事故で、父は建物の屋根から落ちました。わたしは断食し、父の健康が早く回復するように天の御父の祝福を求めて祈りました。脊髄損傷で入院し、歩くことができなかつた父は、それからたった13日後に退院することができました。今では父がけがをしたことに気づく人はだれもいません。

当時わたしはまだ幼かつたので、断食と祈りがもたらす恵みを理解していませんでした。信じなければならぬことだけは分かりました。教会の教えを通して、どのように助けを求めればよいか知っています。

フアリエン
台湾花蓮 地方部、ルイエー
チエン シャン
鄭 謐 (18歳)

万事があなたがたの益となるようにともに働く

以前は毎晩のように、聖文勉強と宿題のどちらを先にするか悩んでいました。やるべきことが山ほどあるときは、主に信仰をもって宿題を後に回し、頭がさえているうちに聖文を読むというのは、なかなか気が進まないことでした。でも、霊的な勉強を優先したときはいつも、ほかの勉強も時間どおりに終わるよう主が助けてくださることが分かりました。

ワシントン州パスコステーク、ベースンシティー第2ワード
ミッシェル・ニールソン(17歳)

今年、学校の吹奏楽部のディレクターがコンサートに出場する日を決めました。けれどもそのコンサートは、青少年で毎年行っている神殿訪問の日と重なっていたのです。わたしのほかに3人の教会員がコンサートに出ることになっていました。そのためディレクターから、もし4人が当日欠席するなら、ほかの部員も皆出られなくなるぞ、と脅かされました。わたしに腹を立てる友達もいました。わたしは断食して祈り、主に頼ろうと決心しました。すると神殿訪問に行くべきであるという聖霊のささやきがあり、万事うまくいくと告げられました。

神殿訪問の後、吹奏楽部の練習に行く気にはなれませんでした。でも、悪天候のためにコンサートが延期になったと聞いたとき、その恐れは喜びに変わりました。信仰をもって主を信頼するとき、主は人生を導いてくださいます。「万事があなたがたの益となるようにともに働く」のです。

ペンシルベニア州ウィリアムズポートステーク、
パーウィックワード
ヘザー・トッド(15歳)

大都市で、全員が教会員ではない家族で育つたわたしは、どうやって麻薬やギャング、不純な行いを避ければよいのだろうと考えることがありました。でも今はそれが可能だと知っています。試練の中にあっても、天の御父が必ず方法を示してくださいます。主は、耐えられないような試練や障害はお与えになりません。最終的には、万事がわたしの益となるように働くのです。

ペンシルバニア州パレーフォージステーク、
サウスフィラデルフィア支部
シャンサウ・ロク(18歳) ■

書/章
記録者

エテル1-15章
モロナイ

リーハイがエルサレムを出てからの年数

年代 (推定も含む)

紀元前 2200

モルモン書

早見表

ヤレド人

●ヤレドとヤレドの兄弟は家族を連れ、人々(ヤレド人)とともにバベルの塔のある所を出て、新しい土地へ旅をする(エテル1-2章参照)。

●船を造って海を渡り、アメリカ大陸へ行く(エテル2-6章参照)。



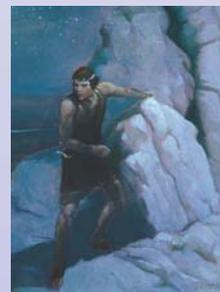
●イーキシが秘密結社を作る(エテル8章参照)。

●イーマーが油を注がれて王となり、イエス・キリストにまみえる(エテル9:14-22参照)。



●ひどい飢饉と毒蛇のため、人々は主の前に謙遜になる(エテル9:30-35参照)。

預言者たちは、悔い改めなければヤレド人の国が滅びると警告する(エテル11:1-13参照)。



激しい内戦の結果ヤレド人の国が滅びる。コリアンタマーとエテルだけが生き残る(エテル13-15章参照)。

イエス・キリストに関するおもな教え



キリストはヤレドの兄弟に御自身の霊体をお見せになる(エテル3-4章参照)。

福音の原則に関する声明

(24ページの表を参照)

1 2

3 4

聖書の書

創世

列王下 イザヤ

600

8

591

11

588

29

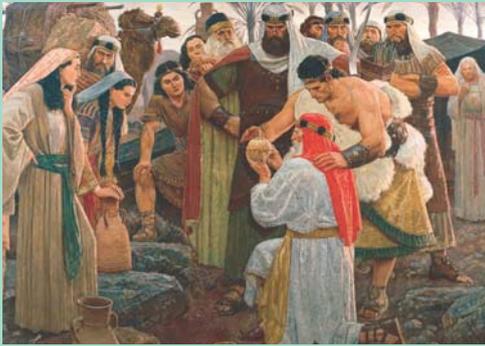
570

30

569

リーハイの家族

- 民が悔い改めないかぎりエルサレムは滅びると預言者たちが警告を発する(1ニーファイ1:4参照)。
- 主はリーハイと家族に約束の地まで旅をするように命じられる。リーハイの一行は荒れ野へ出発する(1ニーファイ2:1-6参照)。
- リーハイの息子たちが真鍮の版を手に入れるためエルサレムに戻る(1ニーファイ3-4章参照)。
- イシマエルと家族がリーハイの家族に加わり新しい土地への旅に出る(1ニーファイ7章:16:7-8参照)。



- 主は一行の旅路を導くために、リーハイに真鍮でできた球形の羅針盤(リアホナ)をお与えになる(1ニーファイ16:9-16参照)。

リーハイが命の木の示現を見る(1ニーファイ8章参照)。



リーハイはメシヤについて預言する(1ニーファイ10:3-15参照)。



ニーファイは神が御自身を低くされることを知る(1ニーファイ11-12章参照)。

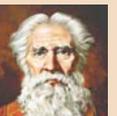


ニーファイはキリストが十字架にかけられることを預言する(1ニーファイ19章参照)。



リーハイがヤコブに聖なるメシヤについて教える(2ニーファイ2章参照)。

ニーファイとヤコブはキリストについて教え、預言する(2ニーファイ6-10章参照)。



ゼラヘムラの民(ミュレク人)

- ゼデキヤ王の息子ミュレクがエルサレムを逃れる。主はミュレクと仲間をアメリカ大陸へ導かれる。ヤレド人最後の生き残りコリアンタマーはその死までミュレク人と生活を共にする(オムナイ1:14-21;ヒラマン6:10;エテル13:20-21参照)。



- ニーファイは世俗の歴史(ニーファイの大版)と民の神聖な記録(ニーファイの小版)を保存し、代々譲り伝えるよう命じる(1ニーファイ19:1-6参照)。

- 主はリーハイにエルサレムが滅びたことを告げられる(列王下25章:2ニーファイ1:4参照)。



- 主はニーファイに船を造るよう命じられる。一行は海を渡りアメリカ大陸に到着する(1ニーファイ17-18章参照)。

- 激しい内戦の結果ヤレド人の国が滅びる。コリアンタマーとエテルだけが生き残る(エテル13-15章参照)。



- リーハイは子孫に勧告と祝福を残して死亡する(2ニーファイ1-4章参照)。

5 6 8

7

10 12

9

11

13

14

16

15

17

書		ヤコブ1-7章	エノス1章	ジェロム1章	オムナイ1:1-22, 26-29		
記録者		ヤコブ(ニーファイの弟)	エノス	ジェロム	オムナイ	アマーロン	ケミシ
年数	40	55	179	200	238	282	320
年代	紀元前559	544	420	399	361	317	279

ゼラヘムラの民
(ミュレク人)



●ニーファイの民はレーマン人を神への真の信仰へ連れ戻そうとするが無益に終わる(エノス1:20参照)。

●ニーファイの民はかたくなになる。多くの預言者が悔い改めを説く。エノスは息子ジェロムに小版を譲り渡して死ぬ(エノス1:22-27;ジェロム1:1-2参照)。

●戦争と平和の時代が繰り返し、オムナイは息子のアマーロンに版を譲る(オムナイ1:1-3参照)。

●ヤコブは反キリスト者のシーレムと議論し、説き破る(ヤコブ7:1-23参照)。

●ニーファイの民は悔い改め、レーマン人との戦いに繰り返し勝利する(ジェロム1:3-13参照)。

●ニーファイ人の悪人の多くが滅ぼされる。アマーロンは兄弟のケミシに版を渡す(オムナイ1:4-8参照)。

ニーファイの民
(ニーファイ人)

●ニーファイは弟ヤコブに版を譲り、死ぬ(ヤコブ1:1-14参照)。

●ヤコブは息子のエノスに版を譲って死ぬ(ヤコブ7:27参照)。

●ジェロムは息子のオムナイに版を譲って死ぬ(ジェロム1:14-15参照)。

●ケミシ、息子のアビナドムに版を渡す(オムナイ1:9参照)。



レーマン人

●ニーファイの民との間で戦争と争いが始まる(2ニーファイ5:34参照)。

●ニーファイの民との間で戦争と紛争が多発する(ジェロム1:8-13参照)。



イエス・キリストに関するおもな教え



ヤコブはキリストへの望みを持つことを教える(ヤコブ4章参照)。

ニーファイがキリストの教義を解き明かす(2ニーファイ31-32章参照)。

福音の原則
(24ページの表を参照)

18-38 39 40 41 42 43 44 45 46 47

聖書の書

エズラ エステル ネヘミヤ マラキ

アビナドム	アマレカイ	モーサヤ9-10章 モルモン		オムナイ1:23-25,30 アマレカイ	モルモンの言葉 モルモン	モーサヤ11-18章 モルモン
		412	421	439		452
		187	178	160		147
		▲	▲	▲		▲

ニーファイ人



● モーサヤがゼラヘムラの民(ミュレク人)を発見する。モーサヤはゼラヘムラの地で王となる(オムナイ1:12-19参照)。

● モーサヤは主の警告を受け、主の声に聞き従う人々と北へ逃れる(オムナイ1:12-13;アルマ22:27-34参照)。

● アビナドム、息子のアマレカイに版を渡す(オムナイ1:10-12参照)。

● 大勢のニーファイ人がニーファイの地を目指してゼラヘムラを出る。激しい内紛が起こり、ゼラヘムラには50人だけが帰還する(オムナイ1:27-28;モーサヤ9:1-2参照)。

● ゼニフに率いられた別のグループがニーファイの地へ帰り、レーマン人と平和に暮らし始める(モーサヤ9:3-9参照)。



● ゼニフの民に対し戦争を起こす(モーサヤ9:10-15参照)。

● ゼニフの民に対して再度戦争を起こす。多くのレーマン人が命を落とす(モーサヤ10:1-20参照)。

● モーサヤが死に、ベニヤミンが王となる。ゼラヘムラに住むニーファイ人とレーマン人との間で戦いが続く(オムナイ1:23-24参照)。

● アマレカイはベニヤミン王に小版を渡す(オムナイ1:25,30;モルモンの言葉1:10参照)。

● ベニヤミン王と聖なる預言者たちがゼラヘムラに平和と義を確立する(モルモンの言葉1:13-18参照)。

ゼニフの民

● 主がゼニフの民を解放され、ニーファイの地に再び平和が確立する(モーサヤ9:16-19参照)。

● ゼニフは王位を息子のノアに譲る(モーサヤ10:21-22;11:1参照)。

● ノア王の祭司の一人であったアルマは、アビナダイの教えを聞いて主を信じる。教えを説き、バプテスマを施す(モーサヤ18:1-31参照)。



● アビナダイはキリストが将来罪を贖われると預言する(モーサヤ13-15章参照)。

● アルマはイエス・キリストの名によってバプテスマを施す(モーサヤ18章参照)。



48

49

50

51

52

53

左から—「ニーファイの神殿」マイク・マーム画。「ニーファイの示現」クラーク・ケリー・ブライス画。「啓示を受けるヤコブ」クラーク・ケリー・ブライス画。「ニーファイ人の最後の戦い」の一部、ゲラリー・E・スミス画。「ヤコブとエノス」スコット・スノー画。「祈りをささげるエノス」ロバート・T・バレット画。「ニーファイ人の最後の戦い」の一部、ゲラリー・E・スミス画。「ヤレドの版を翻訳するモーサヤ」ミネルバ・K・タイカート画。「ノア王の前に進み出るアビナダイ」アーノルド・フライバーク画。「新たな安住の地を探すニーファイ人」C・C・A・クリステンセン画。「アビナダイ、自らの証を確かなものとする」ロナルド・クロスビー画。「モルモンの泉でバプテスマを施すアルマ」ミネルバ・K・タイカート画。

書	モーサヤ1-8章; 19-29章		
記録者	モルモン		
年数	454	475	478
年代	紀元前145	124	121

ニーファイ人

ベニヤミン王は民を教えて新しい名前を授け、王位を息子モーサヤに授ける(モーサヤ1-6章参照)。



アンモンと15人の男たちがゼニフとその一行の消息を調べるためにニーファイの地へ旅をする(モーサヤ7:1-7参照)。



レーマン人

アルマの民

- アルマとその民はヘラムの地で神を礼拝し、栄える(モーサヤ23:3-20参照)。



ゼニフの民

主はアルマに民を連れて逃げるように警告される。アルマとその民は新しい土地に落ち着く(モーサヤ18:32-34; 23:1-5参照)。

- ノア王が殺害される。ゼニフの民はレーマン人の奴隷になる。ノア王の息子リムハイが王となる(モーサヤ19:10-29参照)。
- ギデオンがノア王に対する謀反を先導する(モーサヤ19:1-9; 25:5参照)。

43人の男たち、ゼラヘムラの地へ帰る道を見つけようとして行く。エテルの版である24枚の金版を持ち帰る(モーサヤ8:7-18; 21:25-28参照)。

アンモンはリムハイ王に率いられたゼニフの民を発見するが、民はレーマン人の奴隷となっていた(モーサヤ7:8-16参照)。

アンモンはリムハイの民をゼラヘムラの地へ連れ帰る(モーサヤ22章参照)。

●リムハイの民がレーマン人を自分たちの土地から追い出す(モーサヤ20:8-26参照)。



- ノア王の邪悪な祭司たちが荒野に逃げ込み、レーマン人の娘たちを連れ去る(モーサヤ19:21; 20:1-5参照)。

ノア王の祭司たち

- 再びゼニフの民に戦争を仕掛ける(モーサヤ19:6参照)。
- 何人かの娘が行方不明となったためにゼニフの民に戦いを仕掛ける(モーサヤ20:6-7参照)。
- 軍隊がリムハイの民の捜索中にノア王の邪悪な祭司たちを見つける(モーサヤ22:15-16; 23:30-32参照)。

イエス・キリストに関するおもな教え

ベニヤミン王は人がどれほどキリストに恩を受けているかを説く(モーサヤ2章参照)。



天使がベニヤミン王に、キリストの血により罪が贖われることを明らかにする(モーサヤ3章参照)。



ベニヤミン王の民、キリストの子となる(モーサヤ4-5章参照)。



福音の原則
(24ページの表を参照)

54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64

聖書の書

左から—「ニーファイの民を教えるベニヤミン王」ゲーリー・L・カップ画。「モルモンの泉でバプテスマを施すアルマ」アーノルド・フライバーグ画。「レーマン人の娘たち」ミネルバ・K・タイカート画。「ベニヤミン王の最後の説教の一部」ミネルバ・K・タイカート画。「ゲツセマネにおけるキリスト」ハリイ・アンダーソン画。「ニーファイの民を教えるベニヤミン王」の一部、ゲーリー・L・カップ画。

479
120
▲

507
92
▲

508
91
▲

● モーサヤ王、リムハイ王、アルマとそれぞれの民は一つとなり、ゼラヘムラの地にニーファイ人の国を設立する。アルマが国中にキリストの教会を設立する(モーサヤ25章参照)。

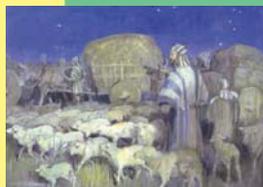


● 不信仰な者たちが多くの者を罪に誘い込む。アルマは罪を犯した者の裁き方について主から指示を受け、教会の秩序を整える(モーサヤ26章参照)。

● 一人の天使が息子アルマとモーサヤの息子たちに現れる。彼らは悔い改め、教会の迫害をやめ、霊的な善悪を償い始める(モーサヤ27章参照)。

● モーサヤ王はエテルの版を翻訳し、民に読んで聞かせる(モーサヤ28:10-19参照)。

● モーサヤ王は息子たちが仲間とレーマン人に福音を宣べ伝えることを行くことを許可する。息子たちの伝道は14年に及ぶ(モーサヤ28:1-9参照)。



● 奴隷からの解放を祈る。主は祈りを聞き届けられ、民は逃れてゼラヘムラの地にたどり着く(モーサヤ24:10-25参照)。

● モーサヤ王は息子アルマにすべての記録を託す(モーサヤ28:20参照)。

● モーサヤ王はさばきつかさによる統治を提案し、民の同意を得る。息子アルマが最初のさばきつかさに選ばれ、同時に教会の諸事をつかさどる大祭司にも任命される(モーサヤ29章参照)。

● さばきつかさの統治に従った年号を使い始める。アルマとモーサヤ王が死ぬ(モーサヤ29:45-47; アルマ1:1参照)。



● レーマン人の支配下に置かれる(モーサヤ23:29, 36-39; 24:1-9参照)。

● ニーファイの地を探していた軍隊がアルマとその民を見つける(モーサヤ23:21-28, 35参照)。

● 祭司たちとその家族がレーマン人の指導者となる(モーサヤ23:33-35, 39参照)。



アルマは悔い改めとキリストによる赦しについて教えを受ける(モーサヤ26章参照)。



息子アルマ、すべての者は神から生まれなければならないことを知る(モーサヤ27章参照)。

66

67

68

69

70

モルモン書の早見表

福音の原則に関する声明

参照箇所	原則
1 エテル4:11-12	あらゆる善はイエス・キリストから出て、善を行うように人々を促す。
2 エテル8:22	権力と利益を得るために秘密結社が全地に広がるまで支援する国民は、どのような国民でも滅ぼされる。
3 エテル12:6	信仰とは、待ち望んでいながらまだ見ていないものである。信仰が試されてからでなければ、証は得られない。
4 エテル12:27	神の前にへりくだり、神を信じるならば、神は弱さを強さに変えてくださる。
5 1ニーファイ1:1	苦難は多くとも、主の厚い恵みを受けることができる。
6 1ニーファイ1:20	主の深い憐れみは、主を信じるすべての者のうえに及ぶ。
7 1ニーファイ2:20	主の命令を守るかぎり、わたしたちは地に栄える。
8 1ニーファイ3:7	主が命じられるとき、主はそれを成し遂げる道を備えてくださる。
9 1ニーファイ8:10-32	命の木の実は、ほかのどんな実より好ましい。
10 1ニーファイ10:17-19	神の奥義は聖霊の力により、熱心に求める人に明らかにされる。
10 1ニーファイ14:10	教会には、神の小羊の教会と悪魔の教会の二つしかない。
12 1ニーファイ17:33-35	主はすべての人を公平に重んじられ、義にかかった者は神の恵みを受ける。
13 1ニーファイ22:26	神の民の義はサタンを無力にする。
14 2ニーファイ2:11	すべての事物には反対のものがなければならない。
15 2ニーファイ2:16	神は人が思いのままに行動することを許された。
16 2ニーファイ2:25	人は喜びを得るために存在する。
17 2ニーファイ2:27	人はキリストを通じて自由と永遠の命を選ぶのも、悪魔の力によって束縛と死を選ぶのも自由である。
18 2ニーファイ9:13-15	人は復活の日に、自分の罪あるいは義について完全な知識を得る。
19 2ニーファイ9:20	神はすべてのことを御存じである。
20 2ニーファイ9:29	神の勧告に聞き従うならば、学識のあるのはよいことである。
21 2ニーファイ9:39	肉の思いを抱くことは死であり、霊的な思いを抱くことは永遠の命である。
22 2ニーファイ9:51	価値のないものに金を使うべきではなく、満足を得られないものに労力を費やすべきではない。
23 2ニーファイ25:23	最善を尽くした後に、神の恵みにより救われる。
24 2ニーファイ25:29	全身全霊を込めてイエス・キリストを拜すれば、追い出されることはない。
25 2ニーファイ26:11	主の御霊はいつでも人を励ますわけではない。
26 2ニーファイ26:24	主は人を愛しておられるため、主のなさることはすべて人のためである。
27 2ニーファイ26:28	すべての人はほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者は一人もいない。
28 2ニーファイ26:33	神にとってすべての人が等しい存在であり、御自分のもとに来るようにすべての人を招いておられる。
29 2ニーファイ28:7-8	「明日は死ぬ身なのだから、飲み食いし、楽しみなさい。そうすれば、わたしたちは幸せだ」というのは偽りの教えである。
30 2ニーファイ28:21	悪魔は人をなだめて、シオンの中ではすべてが良いと思わせ、巧みに人を地獄に誘い落とす。
31 2ニーファイ28:30	主は御自分の子らに教えに教えを加えながら少しずつ教えられる。
32 2ニーファイ29:1-2	末日において主は、主の民を集める旗としてモルモン書を用いられる。
33 2ニーファイ31:6-13	救い主はあらゆる義を満たすためにバプテスマを受けられた。救い主の模範に従い、主の名によってバプテスマを受ける者には聖霊の賜物が授けられる。
34 2ニーファイ31:17	悔い改めとバプテスマの後に、聖霊による罪の赦し ^{おとぎ} が与えられる。
35 2ニーファイ31:20	キリストを固く信じ、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進むならば、永遠の命を受ける。
36 2ニーファイ32:3-5	聖霊は人のなすべきことをすべて示される。
37 2ニーファイ32:8	御霊は人に祈ることを教える。
38 2ニーファイ32:9	まず祈らなければ、主のためにどんなことも行うべきではない。

参照箇所	原則
39 ヤコブ1:17-19	主から務めを託する前に教えてはならない。
40 ヤコブ2:18-19	富を求める前に、神の王国を求めなければならない。
41 ヤコブ2:35	悪い手本は相手の心を傷つけ相手からの信頼を失う原因となる。
42 ヤコブ4:7	神は人の弱点を示し、人が主の業に携わる力を得ているのは神の恵みによるのであると分らせてくださる。
43 ヤコブ4:8-10	主に助言しようとしないうで、主の手から助言を受けるようにするべきである。
44 ヤコブ4:14	霊的に盲目となるのは、的のあなたに目を向けるためである。
45 ヤコブ5:65-75	末日において主は、ぶどう園の良い枝の生長に合わせて悪い枝を取り除かれる。
46 ヤコブ7:11	すべての預言者はイエス・キリストについて書き記し、預言した。
47 エノス1:5-8	人はイエス・キリストを信じることにより、罪が赦され、罪のない者とされる。
48 オムナ1:26	人は断食と祈りを続け、最後まで堪え忍ぶことによって自分自身のすべてをささげ物として救い主にささげるべきである。
49 モーサヤ10:17	子供たちに憎むことを教えると、その影響が長く残ることもある。
50 モルモン書の言葉1:7	目的が理解できないときも、主の御心を行わなければならない。
51 モーサヤ15:11-13	キリストの子孫とは、キリストの言葉に従い、キリストを信じ、キリストの贖いによって罪の赦しを受けることを待ち望む人々のことである。
52 モーサヤ16:8	死のとげはキリストにのみ込まれてしまう。
53 モーサヤ18:9-10	慰めを与えることを望み、いつでも、どのようなことについても神の証人となることを望むなら、バプテスマを受ける備えとなる。水によるバプテスマは、神と聖約を交わしたことを神の前に証明する。
54 モーサヤ2:17	人に仕えるとき、神にも仕えているのである。
55 モーサヤ2:21	全身全霊で神に仕えたとしても、わたしたちはまだ、ふつつかな僕である。
56 モーサヤ2:32-33, 36	神の律法を知りながら悪霊に従う者は、永遠の罰を受ける。
57 モーサヤ3:17	キリストのほかにも、どのような名も道も人の子らに救いをもたらすことはできない。
58 モーサヤ3:19	聖なる御霊の勧めに従い、子供のようにならないかぎり、生まれながらの人は神の敵である。
59 モーサヤ4:3	罪の赦しは良心の安らぎを得させる。
60 モーサヤ4:27	すべてのことは賢明に秩序正しく行うべきである。
61 モーサヤ4:30	自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、信じ続けなければ、滅びる。
62 モーサヤ5:2	御霊により心の中に大きな変化が生じるならば、悪を行う性癖はなくなり、絶えず善を行うようになる。
63 モーサヤ21:13-15	主は重荷を負いやすくしてください。
64 モーサヤ7:29-33	主は御自分の民が戒めに背く日には民を助けられない。人が十分に固い決意をもって主に立ち返り、主に頼り、力の限りを尽くすならば、主は御自分の意のまま、思いのままに、奴隷の状態から救い出してくださる。
65 モーサヤ8:20-21	人の子らは何と理解力がなく鈍感なことか。
66 モーサヤ24:14-15	心楽しく忍耐しながら主の御心に従うべきである。そうすれば主は容易に重荷に耐えることができるように人を強めてくださる。
67 モーサヤ26:29-30	真心から悔い改める度に、主は人を赦される。
68 モーサヤ27:25-26	全人類は再び生まれ、墮落した状態から義の状態に変わらなければならない。こうして彼らは、神の王国を受け継ぐ新たな者となる。
69 モーサヤ27:31	終わりの日には、すべてのひざがかがみ、すべての舌が、贖い主が神であり、主の裁きが公正であることを告白する。
70 モーサヤ27:36	わたしたちは神の手に使われる者となって、多くの人に贖い主について知らせることができる。

日々の生活の中で主の愛を感じる

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

中央扶助協会会長 ポニー・D・パーキン——「この教会のすべての女性に経験してもらいたいことを一つだけ挙げるとすれば、それは主に愛されていることを日常生活の中で感じていたきたいということです。わたしは人生を通じて主の愛を感じてきました。そのことにとっても感謝しています。」（「主に愛されていることを感じる」『リアホナ』2002年7月号、95。Ensign, 2002年5月号、84）

主を愛するようになるなら、恵み深い神は何を約束しておられますか。

1コリント2：9——「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」

2ニーファイ1：15——「主はわたしを地獄から贖ってくださった。わたしは主の栄光を見た。そして、主の愛の御腕に永遠に抱かれている。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「神への愛はすべての徳、善、人格の力、善へ導く忠実さの源です。……主なる神を愛し、その御子を愛してください。そして、御父と御子が注いでくださる愛に常に感謝してください。ほかの愛が廃れていくときでも、人間に対する、人知を超えた神の無窮の愛、わたしたちのために命を捨てられた御子の愛は絶えることがありません。」（『生ける預言者の言葉』『聖徒の道』1996年12月号、8。“Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley,” Ensign, 1996年4月号、73）

1ニーファイ11：22-23——

「〔神の愛は〕人の子らの心にあまねく注がれ……どんなものよりも好ましいものです。……それは人にとって最も喜ばしいもので〔す。〕」

毎日主の愛を感じるために、何をすることができのでしょうか。

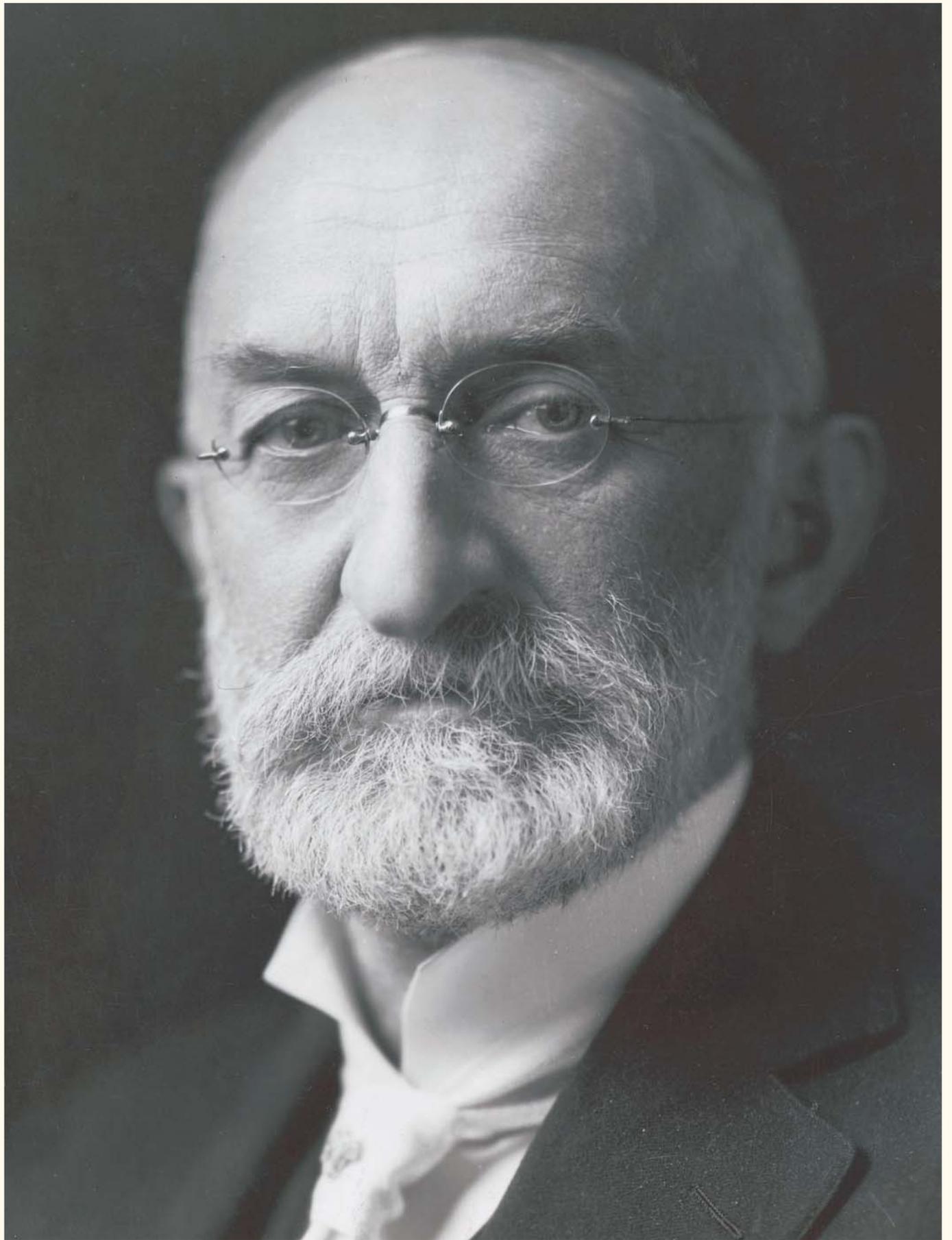
モルモン書ヤコブ3：2——「頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。あなたがたの思いが確固としていれば、とこしえにそうすることができるからである。」

七十人 ジーン・R・クック——「真実の感謝は、愛を謙遜に見、感じ、そしてついには受ける能力のことで、感謝は神に愛をお返しする一つの方法です。神の御手を認め、神にそのことを話し、あなたの愛を神に表すのです。皆さんが主を真に知るようになれば、無限の、神聖な関係が信頼のうえに築かれたのが分かるでしょう。また、神は皆さんの苦悩を御存じであること、いつも思いやりと愛をもってたたえてくださることが分かるでしょう。」

愛を受け、感じてください。ただ神が皆さんを愛しておられることを知るだけでは十分ではありません。この賜物は、毎日毎日続けて感じなければなりません。そうすると、皆さんの人生を通じて神聖な動機が与えられる

でしょう。悔い改めてください。皆さんの生活から、この世的なものをすべて除くのです。怒りもその一つです。続けて罪の赦しを受けてください。そうすれば、激情をすべて制し、愛で満たされるでしょう。」（『慈愛——完全な永遠の愛』『リアホナ』2002年7月号、92。Ensign, 2002年5月号、83） ■





ヒーバー・J・ グラント

苦難の時代の預言者

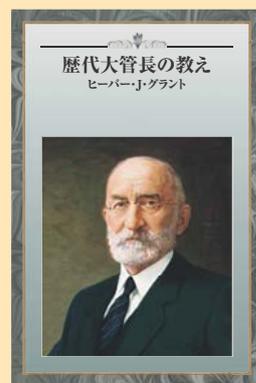
粘り強いことでその名を知られる
グラント大管長は、
第一次世界大戦の終結から
大恐慌、第二次世界大戦へと続く
苦難の時代の教会を導くために
十分に備えられていた。

シャーリー・ミルズ・ジョンソン

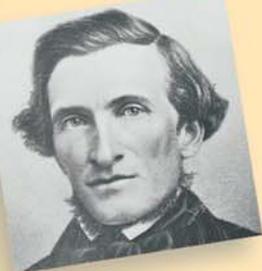
1918年、ジョセフ・F・スミス大管長が臨終を迎えようとしていたとき、その傍らには大管長に寄り添うヒーバー・J・グラントの姿がありました。当時グラント長老は十二使徒定員会会長を務めていました。スミス大管長はヒーバーの手を握ってこう言いました。「主はあなたを祝福しておられます。主はあなたを祝福し、大いなる責任を与えられました。これは主の業であり、人の業ではないことを、いつも忘れないでください。主は何人にも勝って偉大な御方です。主は、教会の導き手として御心にかなう人物はだれであるかを承知しておられます。主は決して間違いを犯されません。主はあなたを祝福しておられます。」¹

これらの励ましの言葉とともに49万5,000人の教会員を率いる重責がヒーバー・ジェディー・グラントの双肩に託されたのです。時は第一次世界大戦が終結したばかりで、人々は荒廃から立ち上がるために懸命に努力していました。追い打ちをかけるかのように、1918年秋に流行し始めたインフルエンザは世界中に蔓延し、最終的に2,000万以上の人々の命を奪いました。このために、グラント大管長が支持を受けることになっていた1919年4月の総大会は6月まで延期されました。²

しかし、185センチを超える長身なこの指導者は直ちに任務に取りかかりました。それから26年半の間、グラント大管長は預言者、聖見者、啓示者として仕えたのです。第7代の大管長として、プリガム・ヤングを除いてどの大管長よりも長期にわたってその重責を果たしました。この間、教会は規模が約2倍となっており、会員数は95万4,000人に達し、3つの新しい神殿が建設され、16の伝道部が開設されました。グラント大管長の指導の下、教会は福祉制度を設立し、家族歴史記録のマイクロフィルム化に着手し、タバナクル合唱団のラジオ番組を毎週放送するようになりました。グラント大管長は教会初のラジオ放送で説教を行って、教会に対する当時の否定的なイメージの改善に大きく貢献しました。



ヒーバー・J・グラントの教えは、
2004年度の
メルキゼデク神権者と
扶助協会の
教科課程であり、
『歴代大管長の教え』
シリーズの学習ガイド
5冊目となる。



上——ジェデダイア・M・グラント。

右上——レーチェル・リッジウェイ・アイビンス・グラントと10歳のヒーバー・J・グラント。

右下——ヒーバー・J・グラント, 34歳。

右ページ, 上——ヒーバー・J・グラントとルーシー・ストリンガム・グラントと娘たち, レーチェル, ルーシー, フローレンス, エディス, アンナ(1887年)。

右——ヒーバー・J・グラントの宣教師としての名刺, 1901年から1903年にかけて日本で伝道したときに使われた——1908年に日本語で初めて印刷された伝道用のちらし。

右端——1902年, 日本におけるヒーバー・J・グラント。

ジェデダイアとレーチェル

グラント大管長は両親の模範によって霊的によく備えられていました。ブリガム・ヤング大管長の第二副管長を務めていた父ジェデダイア・M・グラントは、ヒーバーが生まれた1856年11月22日からわずか9日後に、肺炎のため40歳でこの世を去りました。しかし、父親から受け継いだ信仰と義の遺産はヒーバーの生涯に大きな影響を与えました。「父が亡くなった後何年にもわたって、父の正直さと忠実な働きがもたらす恵みを受けました」と後にグラント大管長は語っています。³

ヒーバーの母レーチェル・リッジウェイ・アイビンス・グラントの影響も同じように力強いものでした。レーチェルは、合衆国東部で裕福な暮らしをしていた実家の家族から、もしイエス・キリストの福音を捨てるなら、暮らしに困らないだけの生活費を与えると言われました。しかし彼女は^{あかし}その申し出を断って、自分の証に忠実に生きることを選びました。夫が亡くなってから一文無しとなった若き母親は、息子を養うために針仕事をし、そのうえ下宿人を置いていました。

母レーチェルは息子に熱心に働くことの大切さを教え、ともに貧しい生活の中でやり繰りしました。このようにして母と子のきずなは固く結ばれていきました。後にヒーバーは母親についてこのように述べています。「今日ここに立っているわたしにとって、母はすべてでした。わたしにとって母は母親であり、父親でした。誠実、献身、愛、決意、道義心について母は比類ない模範を示してくれました。わたしが今日、ここに大管長として立っているのは、母の忠告と勧告に従ったためであり、神の業の神聖さについて母が持っていた燃えるような証のおかげです。」⁴

預言者から受けた影響

ヒーバーの生涯に最も大きな影響を与えたのは母親でしたが、主は彼を導き教えるため

に、人生の折々で多くの人との出会いを与えられました。最初に交わりを持った人の中にブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)がいます。少年時代のヒーバーは貧しくてそりが買えなかったため、冬になると町を走る馬ぞりにつかまって1ブロックか2ブロック雪の上を滑り、そして手を離すという遊びに興じていました。6歳だったころのある日、ヒーバーはヤング大管長の馬ぞりにつかまりました。後に、ヒーバーは次のように述べています。ヤング大管長は「立派な馬で仕立てたそりをこの上なく好んでいて、いつも猛スピードで通り^{しっそう}抜けていました。わたしは疾走するそりにつかまったまま、手を離せずにしたのです。しばらくすると寒さで凍えそうになりました。」

やがてヒーバーに気づいたヤング大管長は御者に停止するように命じると、凍えた少年にバッファローの毛皮をかけてくれました。

そして、少年に名前を尋ねました。少年がジェデダイア・M・グラントの息子であることを知ると、ジェデダイアをどれほど愛していたかを打ち明け、そしてヒーバーも父親のような立派な人になってほしいと言いました。

ヤング大管長はヒーバーをそりから降ろすときに、執務室に訪ねて来るように言いました。このようにして始まった二人の親交はヤング大管長が亡くなるまで続きました。この親交についてヒーバーはこのように語っています。「わたしはヤング大管長を敬愛するようになっただけでなく、愛するようになりました。父親の愛を受ける境遇に戻ることが許されたならば、自分の父親に感じるだろうと思う愛を彼に感じたのです。」⁵

若きヒーバーの選択

ヒーバーの成長期は貧困そのものでしたが、決して暗い毎日を過ごしたわけではありま





せん。お金がないからといっていじけることはありませんでした。野球が上手になりたくても、ボールを買うお金がなかったときには、母の下宿人の靴を磨いてお金を手に入れました。後にソルトレーク劇場に入ってみたいという思いに駆られたときには、切符を買うお金がないことを悔やむのではなく、観客に飲み水を運ぶ仕事を見つけて、舞台を見る許可を得ました。⁶

ヒーバーは成長するに従って、持ち前の粘り強さと不屈の精神とが仕事に生かされるようになってきました。合衆国海軍士官学校への入学が許可されたとき、彼は母親のそばにいて社会人になることを選びました。⁷ ヒーバーは16歳で学業を終えると、銀行で事務の仕事に就き、簿記を学びました。正直で、熱心に働き、学習意欲が旺盛なヒーバーに、やがて様々な成功の機会が訪れました。20歳になるころにはシオン貯蓄銀行信託会社 (Zion's Savings Bank and Trust Company) の出納副主任に昇進する一方で、保険の代理店を持つまでになっていました。⁸

青少年時代に貧しさを経験したことは、ヒーバーにとって、人を思いやる心を養い、第一次世界大戦、大恐慌、第二次世界大戦の余波をまともに受ける教会を導く備えとなりました。

「悪魔」に打ち勝つ

祝福師の祝福の中で若い時代に教導の召しを受けると約

束されていたヒーバーは、青年時代、そのことについて悩んでいました。その約束が伝道を指していると考えていた彼は、23歳になっても伝道の召しが来なかったために不安を抱いていたのです。この約束が実現しないために、自分の立場について懸念し、教会についても疑問を抱くようになっていました。あの祝福師は靈感を受けていなかったのではないだろうか、もしそうだとしたら、ほかの啓示も靈感に基づいていなかったのかもしれないという思いが心の中で交錯し始めました。考えれば考えるほど混乱しました。教会が真実であることは知っています。ではなぜ絶えず疑問がわいてきてはそれに悩まされるのだろうか。最終的に、祝福師は間違っただけに違いないと考えることにしました。しかし、依然として心は晴れませんでした。

ある日ソルトレーク・シティーのメインストリートを歩いていると、いつもの考えが浮かんできて彼を苦しめ始めました。歩道のその場に立ち止まると、周囲にはだれもいませんでしたが、ヒーバーは大声で言いました。「悪魔よ。黙れ。教会



のすべての祝福師が祝福の中で間違いを犯し、うそを言っているとしても気にしない。わたしは心から福音が真実であることを信じているから、自分の信仰を失ったりはしないぞ。」

ヒーバーはそれから二度とこのような消極的な考えに悩むことはありませんでした。そして、それからしばらくして、ステーク会長に召されたのです。それは祝福師の祝福の成就でした。⁹

使徒の召し

1882年にわずか25歳で使徒に聖任されたヒーバーは、自分に寄せられた信頼を受けるに値しないし、こたえる力量もないことについて思い悩んでいました。アリゾナのアメリカ先住民を訪れる途中で、同僚たちから離れて一人になると、そのことについて祈り、深く考え始めました。後に、一人で



いるときに、幕のかなたで開かれている評議会を「見たように感じた」と説明しています。その評議会では十二使徒定員会に生じた二つの空席を埋めることについて話し合いが行われていました。ヒーバーの父親と預言者ジョセフ・スミスがヒーバーの名を挙げました。そのとき、ヒーバーの不安は一掃されました。「これらすべての人々が……わたしのために示現を与えてくれたのだということに気づきました。その日から、自分が人生で成功するか失敗するかはわたしに、わたしだけに懸かっていることを自覚しました。」¹⁰

家族との生活

グラント大管長は愛にあふれた夫であり、父親でした。あるとき妻からお互いの欠点を指摘し合おうと言われ、グラント大管長はそれに同意しました。妻はヒーバーの欠点を一つか二つ指摘してから、自分の欠点を言ってほしいと言いました。するとグラント大管長は笑みを浮かべながら、「君には一つもないよ」と答えました。¹¹

グラント大管長は10人の娘たちを愛し、いつも身近にいるようにしていましたが、2人しかいなかった息子を幼くして失った事実は、彼にとって深くぬぐい去ることのできない悲しみとなっていました。

教会の責任を果たすために旅を強いられた長い年月の間、グラント大管長は家族から離れる度に孤独を感じていました。訪問から帰ると、家族は大喜びで迎えました。旅の間の経験を話したり、子供たちを一人ずつ両足の上に乗せて部屋を歩き回ったりして、父親が家族と一緒にいる時間を喜びとしていたことは、娘たちの記憶に深くとどまりました。¹²

粘り強さとユーモアのセンス

グラント大管長を個人的に知る人々は、彼に備わっていた多くの優れた特質の中で特に二つの点が傑出していたことを認めています。それは粘り強さとユーモアのセンスでした。グラント大管長はしばしば、1粒のトウモロコシを運ぶために失敗を繰り返しながら69回も挑み続けたアリの話をしました。大管長はこう言っています。「不屈の努力について昆虫から学んだすばらしい教訓は、生涯を通じて心を奮い立たせてくれました。」¹³

大管長の粘り強さの一つの例が、歌唱法をどうやって身に付けたかによく示されています。グラント大管長は43歳のときに、上手に歌えるようになろうと決意しました。それまでに音程どおりに歌えたことは一度もありません。大管長はこのように説明しています。

「わたしの秘書は、美しいバリトンの声の持ち主でした。わたしは彼に、正しい音程で歌えるなら、この世にあるものを何でも上げようと言いました。彼は笑いながら言いました。『声を出せて、根気のある人ならだれでも歌えますよ。』わたしは直ちに彼をわたしの歌の教師に指名しました。

レッスンはその晩から始まりました。練習を始めてから2時間たっても、わたしは練習している曲の1行すら歌えませんでした。その歌を5,000回以上練習してから、人前で歌う機会がありましたが、結果は惨憺^{さんたん}たるものでした。それからさらに同じ曲を6か月間練習しました。今では数時間の練習で一つの歌を歌えるようになっています。」¹⁴

歌唱法を学ぶ努力について語った幾つかの話にはグラント大管長のユーモアのセンスがあふれています。あるとき、大管長は歯科医院の隣の建物で歌の練習をしたときの様子

について紹介しました。大管長は、待合室にいたある人の感想を伝え聞いた、と話しました。その人はこう語ったと言うのです。「だれかが歯を抜かれているときのような声だね。」¹⁵

信仰の人

グラント大管長は1918年11月23日に第7代大管長に召されたとき、62歳でした。1945年5月14日に他界したときは、88歳でした。大管長は必要であれば壇上から厳しく語りました。合衆国におけるアルコール飲料の製造、販売を法律によって禁じる、禁酒法を支持する活動や、無分別な施しに反対する活動に熱心に参加しました。けれども、自分の主張を力説する際には、ユーモアのセンスを交えることがよくありました。末日聖徒の特質を説明するために、大管長はあるときこのように語りました。「議会に一つの法案が持ち込まれたときの話を聞いたことがあります。それはモルモンを不当に扱うものでした。聖徒たちは廃案になることを祈りますが、そうならないとしても、とにかく神に感謝します。……この話は幾つかの真理を明らかにしています。モルモンは神の約束が確かに実現することを知っています。神はすべての人が試されると言われました。これらを知っている末日聖徒は、祝福の中だけでなく試しの中にも創り主がおられることを理解しているのです。」¹⁶

ヒーバー・J・グラント大管長は、ヨーロッパとアジアの伝道部を管理した時代も含め、揺るぎない信仰をもって全世界を巡り、証した人でした。グラント大管長はあるとき次のように証しました。「わたしは神が生きておられ、イエスがキリストであられ、ジョセフ・スミスが神の預言者であったことを知っています。わたしは手を伸ばして、福音の実を摘み、食べました。それらは甘く、確かにどのようなものよりも甘いものです。」¹⁷けれどもグラント大管長は味わっただけでなく、その実を人々に差し出す

ために全力を尽くしました。なぜなら、自らの経験から、福音はいかなる逆境に置かれている人をも支えてくれることを知っていたからでした。■



シェリー・ミルズ・ジョンソンはユタ州オレム・カスケードステーク、カスケード第4ワードの会員です。

注

- 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』xxで引用
- ジョセフ・フィールディング・スミス、*Essentials in Church History*, 第20版(1966年), 639参照
- “Work, and Keep Your Promises,” *Improvement Era*, 1900年1月号, 191
- Conference Report, 1934年4月, 15
- プレストン・ニブレー, *The Presidents of the Church* (1941年), 271参照
- The Presidents of the Church*, 273参照
- 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』xiii参照
- The Presidents of the Church*, 276–277参照
- フランシス・M・ギボンズ, *Heber J. Grant: Man of Steel, Prophet of God* (1979年), 35–36参照
- Conference Report, 1941年4月, 4–5
- オーガスタ・ウィンターズ・グラント “My Husband,” *Relief Society Magazine*, 1936年11月号, 671
- 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』xv参照
- “A Story That Helped Me,” *Juvenile Instructor*, 1913年6月号, 366
- 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』34–35で引用
- “Learning to Sing,” *Improvement Era*, 1900年10月号, 887参照
- ブライアン・H・スタイン編, *Collected Discourses Delivered by President Wilford Woodruff, His Two Counselors, the Twelve Apostles, and Others*, 全5巻(1987–1992年), 第2巻, 101
- 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』20参照



左ページ, 左上——
1922年グラント大管長は初めてラジオ放送によってメッセージを伝えた。

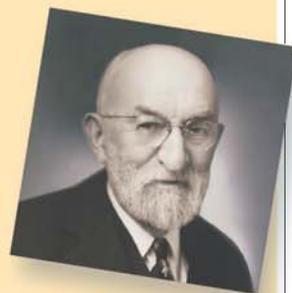
左下——グラント大管長が管理する時代に始まったデゼレト産業(Deseret Industries)。

右——1925年の大管長会。アンソニー・W・アイビンス第一副管長, ヒーバー・J・グラント大管長, チャールズ・W・ニブレー第二副管長。

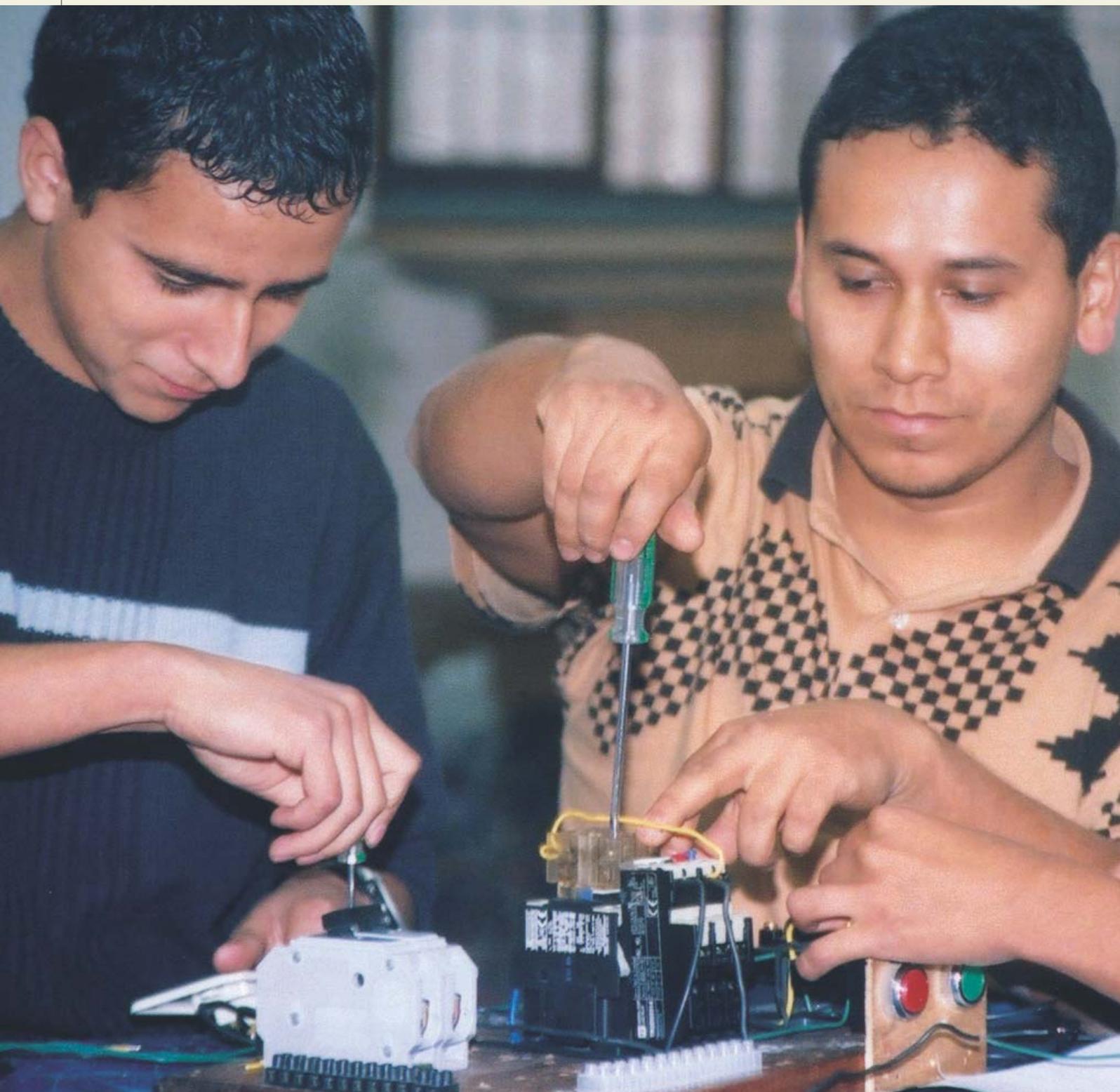
右ページ, 上——
グラント大管長, 64歳。

中——1936年の大管長会。J・ルーベン・クラーク・ジュニア第一副管長, ヒーバー・J・グラント大管長, デビッド・O・マッケイ第二副管長。

下——グラント大管長, 84歳。



永代教



育 基 金

希望に満ちた 明るい光

「永代教育基金」は、利用者や
献金者だけでなく、教会全体にも
祝福をもたらしてくれます。

永代教育基金部門
実務運営ディレクター

ジョン・K・カーマック



2001年3月31日に開かれた総大会の神権
部会で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
は全世界の人々に影響を及ぼす声明
を発表しました。「永代教育基金」の設立に関する
声明でした。この基金は19世紀に創設された
「永代移住基金」に倣^{なら}って設立されました。「永
代移住基金」とは、ヨーロッパで改宗した何万と
いう末日聖徒がアメリカ西北部の盆地に住む聖
徒の一团と合流するのに役立った基金です。

この新たに設立された「永代教育基金」は、
ふさわしい帰還宣教師や末日聖徒の青年たちに
貸し付けを行い、自国での適切な就職に必要な
訓練や教育を受けられるよう援助するものです。
ヒンクレイ大管長は、この大胆な声明を終えるに
当たり、次のような呼びかけと約束を残しました。
「主は、御自分の民が貧困の中に閉じ込められ
るのを御覧になりたくはないと思います。主は、
忠実な人々に地の良いものを享受させたいと望
んでおられることでしょう。主はわたしたちに彼
らの助けとなる事柄を行ってほしいと思っておら

一人の預言者の心に
浮かんだ一つの
ビジョンであった
「永代教育基金」が、
その発表以来、
多大な影響力を持つ
現実へと変化を
遂げています。
この基金は
将来の教会を担う
指導者を訓練し、
希望をはぐくみ、
人格を形成し
自立を促しています。
そのすべての働きが
来るべき世代に
祝福をもたらして
くれることでしょう。

写真／エドワード・グリンズ、永代教育基金部門の編者による撮影



上——ペルーのリマにある学校、サイバーテックでは情報テクノロジー分野での就職を目指す生徒を養成している。上挿入写真——フィリピンのメリアム・エルキサ(左)は、次のように語っている。「わたしの場合、『永代教育基金』が発表された後ですら希望はほとんどなく、不安でいっぱいでした。それでもわたしは祈り、歩みを進めました。現在では、ウェブデザイナーになるための学校に通っています。すでに就職先を見つけたので、卒業までには貸し付けの返済を終了したいです。」

れるでしょう。そして、わたしたちがそうするならば、主はわたしたちを祝福されることでしょう。この試みが成功するよう、へりくだってお祈りします。また、そのために皆さんが関心に向け、信仰を示し、祈りをささげ、心を砕いてくださいますように、心から願います。」¹

世界中の末日聖徒は、この声明を聞いて歓喜しました。多くの会員が涙を流しました。物質的な祝福を十分に受けている何千、何万という人々が、貧困と絶望の淵に沈む教会の若人を何とかして援助したいと願っていたのです。この声明が発表されたことにより、学資を払えない人々が教育の機会にあずかり、貧困から立ち上げられるよう援助する道が、ほとんどすべての人の前に開かれました。受益者は、安定した仕事が確保できた段階で貸し付けを返済し、ほかの人々も同じような援助が受けられるよう資金を提供したいと思うことでしょう。ヒンクレー大管長が詳細にわたって説明したこの基金の主旨に、教会員は心から賛同の意を表しました。

途上国で、現状から何としても抜け出したいと願っていたヤングアダルトは「永代教育基金」の意味を即座に理解しました。技能や知識、そしてチャンスを手にする道が開かれたのです。ヒンクレー大管長は以前に「教育は進歩への鍵である」と述べたことがあります。「永代教育基金」は「希望に満ちた明るい光」となったのです。

忠実な二人の息子

ある二人の青年が「永代教育基金」の影響力を物語っています。どちらもすばらしい男性です。この二人は、あまり豊かとは言えない国で宣教師として働き、従順に召しを果たしました。一人は帰国してから、優秀な大学に通うことができました。両親が自立した賢明な生活を送り、息子の教育費を支払うための十分な蓄えをしていたからです。在学中に働く必要さえありませんでした。ところが、同じようにふさわしく従順に働いたもう一人の宣教師を帰還後に待っていたのは、伝道に出る前と変わらない貧しい生活だったのです。

経済的に恵まれていた方の帰還宣教師は、この事態に心を痛み、「永代教育基金」事務局に手紙を送りました。その後、この青年は内なる声に従って、両親からもらった1年分の教育費を「永代教育基金」に寄付しました。そして、その年の教育費を自力で賄うための仕事を見つけたのです。この青年が、自分の兄弟と一つになることで、救い主と一つになろうと努めたことは言うまでもありません(教義と聖約38:25-27参照)。

自らのものを惜しみなくささげたこの青年以外にも、大勢の末日聖徒がヒンクレー大管長の呼びかけにこたえています。総大会後、毎日そして毎月のように、何万という人々が「永代教育基金」に献金しています。それらは、^{じゅうぶん}十分な一や断食献金とともに支払われているのです。そ

の結果、基金はほとんど急速とも言える勢いで増え続け、かなりの額になっています。ヒンクレイ大管長が繰り返して述べているように、「これはまさに奇跡です!」

「永代教育基金」のプログラムは、発表後わずか2年足らずのうちに、教会の若人が深刻な貧困に直面しているほとんどの地域で導入されました。すでに1万件以上の貸し付けが認可され、貸し付けのための申請用紙は現在もとどまることなく「永代教育基金」事務局に送付されています。教会の若人は貸し付けを受けることによって、それぞれの国で必要な、多岐にわたる基本および専門的技能を身に付けられるようになっていきます。

南アメリカのある国から最近東になって届いた貸し付けの申請用紙には、次のような希望職種が記されていました。自動車修理工、銀行員、公認ソフトウェア・システムエンジニア、裁縫業、



価値ある何かをつかむ

「価値ある望ましいものを何の苦勞もなく手に入れた人は、後で大きな代償を支払うことになると言われていました。」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

コンピューターメンテナンス、コンピューターネットワーク・システムエンジニア、コンピュータープログラマー、電子技師、環境保全技師、ヘアデザイナー、ホテル支配人、マーケティングおよび販売専門員、天然ガス採掘技師、看護師、栄養士、病理検査技師、インターネット技術者。教育を受ける目的が、いずれも特定の職種に就くことにある点に注目してください。

指導者の育成

このような努力が実を結び始めている中、「永代教育基金」の行く末を想像すると胸が高まります。教会の直面している最も重要な課題の一つは、急速に発展し続ける教会員の必要にこたえる指導者を見つけることです。これらは特に、ラテンアメリカやフィリピンといった教会が大きな発展を遂げている地域では切実です。では、どこで指導者を見いだすことができるの

「永代教育基金」について

- 「永代教育基金」は、大管長会、十二使徒定員会会員、そのほかの中央幹部、中央補助組織指導者を含む委員会によって管理される。

- 「永代教育基金」は献金によって賄われている。献金者のほとんどは普通の生活水準にある教会員である。寄付はすべてそのまま貸付金となり、管理運営費に回されることは一切ない。

- 「永代教育基金」の元金から生み出される利息だけが貸し付けに使用される。すなわち、元金自体は一切使用されることがなく、貸付金となる利息を生み続ける。

- これまでに承認された貸し付けは1万件を超えている。

- 全世界の11の地域でこのプログラムを利用することができる。北アメリカ以外に住む末日聖徒のヤングアダルト120万人のうち、85パーセントを網羅する地域である。さらに6つの地域でこのプログラムを実施するための準備が行われている。

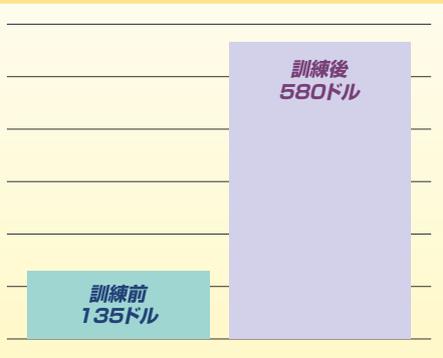
- 利用者の平均年齢は26歳である。約55パーセントは男性(85パーセントは帰還宣教師)であり、45パーセントが女性(25パーセントは帰還宣教師)である。

- 質の高い教育を1年間受けるための平均費用は800アメリカドルであり、訓練プログラムの期間は平均2.2年である。

- 利用者はそれぞれ訓練コースを受け、現実的な目標を立て、予算編成や財政管理を行い、成功に必要なほかの技能や心構えを育てる。このコースを受けた結果、「永代教育基金」に頼らずとも就学できるということに気づく人が多い。

- 貸し付けのほとんどは、地元の雇用機会に見合った職業訓練または技能訓練を受けるために用いられる。

- 貸し付けは通常、授業料、書籍代、そのほかの諸費用にのみ用いられる。



職業訓練前と訓練後に
利用者が得る平均月収



ワルディール・アマリヨ(上と下)
—伝道から帰還後
すぐに自活を始め、
ペルーのリマにある
自動車修理工場わきの
小さな部屋に
住んでいる。
5年間の
機械工学コースを
あと2年で修了。
現在「永代教育基金」
から教育費の援助を
受けている。

でしょうか。教育の機会に恵まれることで安定した収入を得、指導的な役割を果たし、結婚し、義にかなった家庭を築く中で指導者は育っていきます。そしてこのような義にかなった家族から、連綿として次世代の指導者が生まれるのです。

「永代教育基金」から祝福を受ける人々について、ヒンクレー大管長は次のように述べています。「就職に役立つ技能を身に付ければ、こうした若い男女は、代々続いてきた貧困から抜け出すことができます。家族に、より豊かな暮らしをさせることができます。また、教会で奉仕し、指導者として責任を果たすこともできるようになります。……彼らは忠実な教会員として、什分の一と断食献金を納めるでしょう。そして、彼らの影響力により、彼らの住む地域の教会はさらに強くなるでしょう。」²

将来の家族に注がれる祝福は、すでに明らか

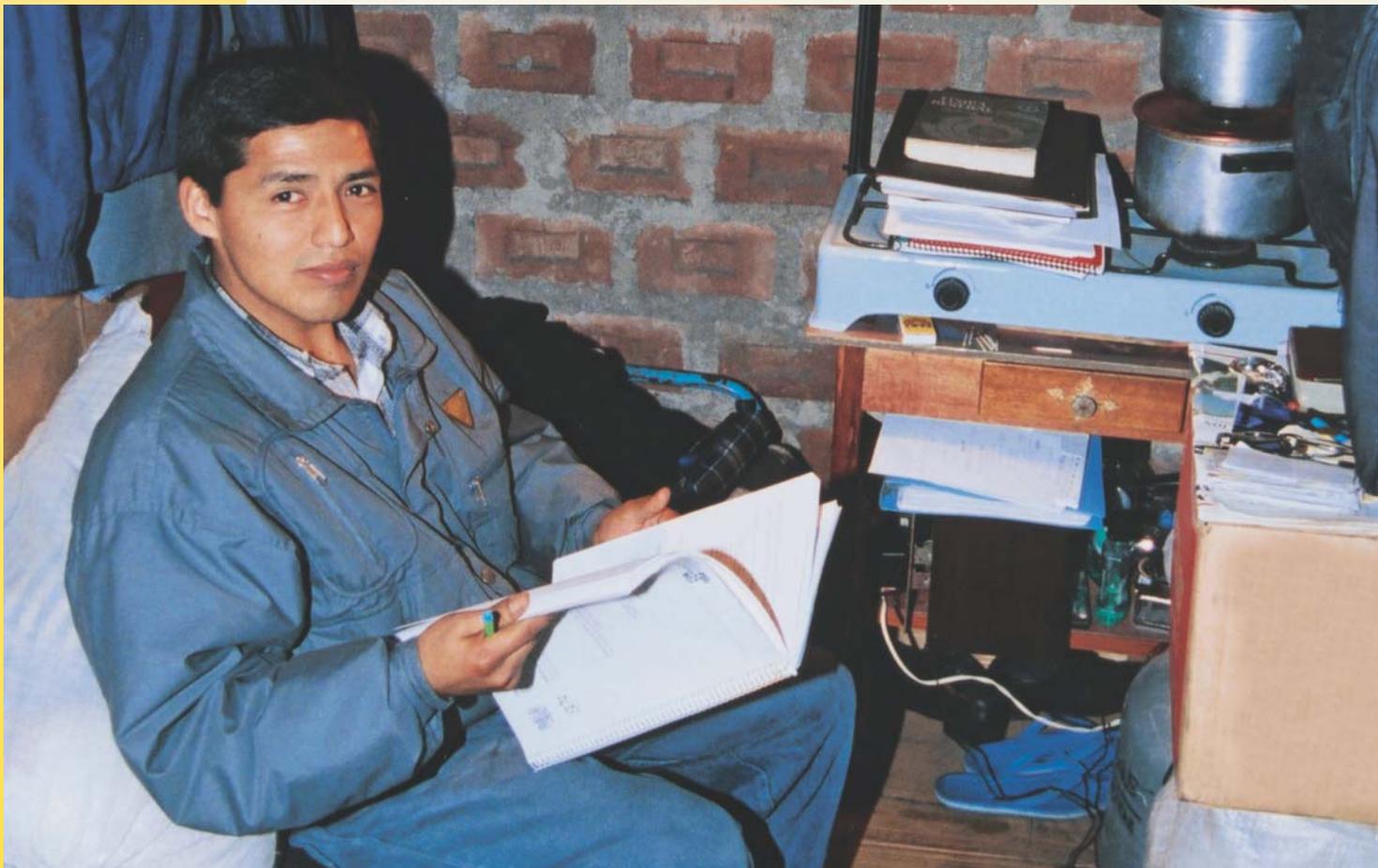
かになってきています。メキシコに住む若い帰還宣教師は次のように報告しています。

「2001年12月、わたしはメキシコ・ベラクルス伝道部における専任宣教師としての召しを終え帰還しました。高い目標を掲げていましたが、経済的な問題がありました。たとえ家族の助けがあったとしても、目標を達成するのは不可能のように思えました。そんな折、『永代教育基金』から援助を受ければ自分の夢が実現するかもしれないということを知りました。

先週、わたしは学業を終え、すぐに就職することができました。以前の3倍の給与で雇用されたのです。2002年12月20日に結婚しました。これから家庭を築くことができます。」

希望

以前は夢をあきらめていた人々の間に希望



どのような人が利用者になれるか

利用者には、以下の条件を満たすふさわしい若人が含まれる。

- 通常、18歳から30歳まで。
- 既婚者、独身者を問わない。
- 教会に活発で、地元のインスティテュートに登録している。
- 「永代教育資金」の認可された地域に住み、そこで働き、学校に通っている。
- 教育費を自力で賄う手段がない。



の花が咲きつつあります。「永代教育基金」の持つ力強い効果が表れ始めているのです。あるブラジル人の青年が多くの人々を代表して次のように語っています。「わたしは落胆し、安定した仕事に就くという目標を一時は捨てました。でも、『永代教育基金』のおかげで新たな展望を見いだすことができました。頭を上げることができたのです。」

「希望」とは「獲得〔または〕達成の予想〔または〕期待を胸に望みを抱くこと」³ を意味します。「期待」という言葉について考えるとき、福音では、復活し、救われ、天の御父とともに住むことを思い出します。証を持つ教会の若人は、不死不滅と永遠の命を得る希望を抱いています。しかし、人並みの職業や自らの技術と才能を伸ばす機会を含め、現世での安定した生活を期待できない状態で来世のことに胸を躍らせるのは容易なことではありません。このような現世での目標が達成不可能と思われるとき、希望は失望へと変わります。物質的な事柄に対する希望がなければ、救いという霊的な事柄に対する希望は非現実的なもののように思われることでしょう。

「永代教育基金」により、早くも全世界の若い男性、女性の希望が増大しています。現代の預言者が自分たちに深い関心を寄せ、最善のものを与えたいと願っていることを知るだけでも、若人にとっては大きな励みとなっています。教育はチャンスを得るための鍵であるという預言者の宣言を知った若人の思いは、教育や訓練、やりがいのある仕事の探求といった目標に向けられています。また、そのような目標を達成するための職業訓練や指導、資金が手の届くところにあると知ることが、若人を失望や落胆から守る強力な盾となっています。このような若人への援助によって、「永代教育基金」が最も大切な原則であり、最も明るい希望の光であることが分かります。

自立

「永代教育基金」が示しているもう一つの力強い原則は自立です。ヒンクレー大管長は、ヤングアダルトがただ一方的に機会を与えられているわけではないということを絶えず強調しています。「〔彼らは〕返済を済ませ、自分が受けたのと同じ祝福をほかの人に与えることもできます。」⁴ ヒンクレー大管長は教会の若人を信頼し、若人もその信頼にこたえています。初期段階の報告では、第1回の貸し付けを受けた人々による貸付金の返済率は、自立の原則がうまく機能していることを証明しています。

このプログラムになくならないのは、ほかの人々も同じような祝福にあずかれるよう、貸し付けを返済するという断固

とした姿勢です。また申請者は、あくまでも自分たちの目標を達成するのに必要な額だけ借りるよう約束します。家賃や食費はすべて自分で賄い、自分の町に住み、学校経費もできるかぎり自分で支払えるような方法を考えなければなりません。申請者はそのような責任を喜んで受け入れるのです。

ある若い夫婦が「永代教育基金」の貸し付けを申請しました。二人は申請の手続きを進めながら、職業の選択と予算の作成に役立つ短期訓練コースを受講しました。そして、よく考えたうえで予算を立て、外食など、支出の中で減らしたり、削ったりできるものを決めました。その結果驚いたことに、つましい生活を送れば貸し付けの必要がないということに気づいたのです。学費を自分たちで賄うことができたわけです。

「永代教育基金」は今や教会員、特にヤングアダルトの兄弟姉妹に自立を教えるうえで大きな原動力となっています。この基金の恩恵は、そのような教会員の子供たちやワード、支部、さらには教会全体へと浸透していくことでしょう。教会員が自立を学び実践していくことにより、あらゆる地域に改善がもたらされます。そして、人々の自尊心と自信が急激に高まり、奇跡的な結果を目の当たりにするのです。

犠牲

ワードや支部からは、文字どおり何百万ドルもの献金を送られてきています。しかも、献金者のほとんどがごく普通の教会員です。毎日、毎週、そのような教会員から少額の献金が届くことで基金が増えてきているのです。このようなあふれんばかりの愛や犠牲こそが献金者の得る唯一の成果であるとすれば、この基金は全世界の末日聖徒の間で犠牲の精神を高揚し、善への仲立ちとなるうえで大きな影響を及ぼしたと判断する必要がありますでしょう。

しかし、ここにはもう一つの原則があります。わたしたちがより思いやりのある義にかなった民となるために選択の自由を使うという原則です。貧困と絶望の中で苦しんでいる人々の姿を目にすると、心の中から次のように問いかける声が聞こえてきます。

利用者となる方法

「永代教育基金」が認可されている地域に居住している場合。

- インスティテュートに登録する。
- 可能ならば、生活費を支払い、教育費の一部を賄えるように仕事を続ける。
- 「永代教育基金」の貸し付け申請についてインスティテュートディレクターに相談する。教育システムのスタッフが申請手続きを始めるに当たって援助してくれる。



「わたしはこれほどたくさんの物を所有しているのに、安座したままで、自分は正しいと感じることができるだろうか。」「永代教育基金」はごく普通の教会員一人一人が、均衡と正義を重んじて、自分よりも恵まれない人々と分かち合うことができるようになるためのすばらしい方法でもあるのです。

有り余るほどの富に恵まれる人々と対照的に、十分な収入にも事欠く人がいるというのは、今に始まったことではありません。パウロはコリントの聖徒の中で同じような状況を目にしました。解決策は共有するということでした。パウロはコリントの聖徒に、次のことを思い起こさせました。「主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。」(2コリント8:9) パウロは資産を持った人々に、自らの富を用いてほかの人々の欠乏を補うよう勧告しました。そうすることで、与えるだけでなく受けるようになるということです。「後には、彼ら[富に恵まれていない人々]の余裕があなたがたの欠乏を補い、こうして等しくなるようにする」からです(2コリント8:14)。パウロはコリントの聖徒に「各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである」と勧告しました(2コリント9:7)。

これは途方もない恵みを秘めた、双方とも満たされる状況と言えます。有り余るほどの富に恵まれた人は、貧しい人々を助けることができます。その過程で、貸し付けを受ける人々は自立し、貸し付けを返済し、ひいてはほかの人々を助けることができます。ヒンクレイ大管長は次のように語りました。「与えられるチャンスを生かすことによって、彼らは自分たちが、また自分たちの両親や先祖が、ほんとうに長い間経験した貧困の泥沼から抜け出すことができます。……[そして]自分たちの母国でこの偉大な業を導く指導者となります。什分の一やその他の献金を納めます。その結果として全世界の津々浦々で教会の業の発展が可能となるのです。」⁵

呼びかけ

一人の預言者の心に浮かんだ一つのビジョンであった「永代教育基金」が、その発表以来、多大な影響力を持つ現実へと変化を遂げています。この基金は将来の教会を担う指導者を訓練し、希望をはぐくみ、人格を形成し、自立を促しています。そのすべての働きが来るべき時代に祝福をもたらしてくれることでしょう。

ヒンクレイ大管長は、この大胆な試みに率先して参加するよう呼びかけています。周りの人々を援助するために犠牲を払う教会員は、その

過程で霊的な祝福を受けることになるでしょう。ふさわしい若人は、預言者の呼びかけに応じて基金の適用を受け、自分自身と自分の家族を養う能力を高めるのです。また技能を身に付け、自信を持ち、以前にも増して教会と地域社会に貢献できるようになることでしょう。主はすばらしい若人、ふさわしい若人を愛しておられます。また、ささげ物の大小を問わず、純粋な動機から犠牲を払う人々を愛しておられます。

主は「永代教育基金」の設立を通して、その王国に永続的な発展をもたらすもう一つの強力な手段を用意されました。それはまた、わたしたちが個人的に成長し、もっと義にかない、寛容で、希望に満ち、もっと自立するように、また同胞である聖徒の間でもっと一致するよう主が用意されたもう一つの手段とも言えます。■

ジョン・K・カーマック長老は、1984年から2001年まで、七十人定員会会員として働きました。

注

1. 「永代教育基金」『リアホナ』2001年7月号, 67
2. 『リアホナ』2001年7月号, 62
3. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第10版, 「希望」の項, 558
4. 『リアホナ』2001年7月号, 62
5. 「手を差し伸べ、引き上げる」『リアホナ』2002年1月号, 62



話し合しましょう

•この基金にかかわることで、だれが恩恵を受けるでしょうか。

•教会の指導者は、なぜ奨学金ではなく、貸付制度を設立したのでしょうか。

•主はなぜ人が自立するよう望んでおられるのでしょうか。

•「永代教育基金」について初めて知ったとき、どう感じましたか。今はどのように感じていますか。

•適切な仕事に就くことで家族の生活基盤はどのように強められるでしょうか。

•堅固な家庭から力強い指導者が生まれるのはなぜでしょうか。

•聖典には、信仰や慈愛と並ぶ不可欠な原則として希望について触れた箇所が数多くあ

ります(モロナイ10:20参照)。生活の中で、希望はどのような役割を果たしているでしょうか。

•犠牲はなぜこれほど影響力のある原則なのでしょう。だれかの犠牲のおかげで、どのような恩恵を受けてきましたか。



上——ペルーのリマに住むカルロス・サリナス・ビジャントイは、コンピューター科学を学んでいる。
下——メキシコシティの自動車整備訓練学校でディーゼルエンジンの修理方法を学ぶ学生たち。





ソファの陰からそっとのぞいて見たジェーンは、震え上がりました。泥棒が引き出しをあさっていたのです。

今すぐ家に電話しなさい!

バーバラ・エルキンズ・キャットマル

長男のジェーンが11歳のとき、生涯忘れることのできない経験をしました。ある日曜日のことです。皆が教会に行く支度をしていると、具合が悪いとジェーンが訴えました。そこでジェーンを家に置いて行くことにしたのですが、様子を知りたいので後で電話すると約束しました。集会所は家からそう遠くなかったもので、帰って来るようジェーンに言われれば、すぐに帰ることもできたのです。

聖餐会が始まる直前になって、今すぐジェーンに電話をかけなければならぬという思いに駆られました。呼

び出し音を何度鳴らしてもジェーンは出ません。眠っていて聞こえないのだと思いました。しかし、何か大変なことが起こっているという思いをぬぐい去ることができませんでした。当時夫は監督会の一員だったので、すでに壇上に座っていました。そこでわたしは、席に着いているほかの子供たちを礼拝堂に残して、すぐに戻るからと言って教会を出ました。

家までのたった5分が、果てしなく長く感じられました。やっと家に着くと転がり込むように中に入り、狂ったようにジェーンを呼びました。いつまでたっても何の返事もなく、姿も見当たりません。しばらくすると、ようやくすすり泣く声が聞こえ、ジェーン

が居間のソファの陰から恐る恐る這い出して来ました。抱き締めてやると、震えているのが分かりました。ジェーンは、わたしの腕の中で話し始めました。事の次第はこうです。

ソファに横になっていたジェーンは、隠れた方がいいと感じました。そこですぐに起き上がると、ソファの陰に隠れました。ちょうどそのとき、だれかが玄関から入って来る音がしました。家族のだれかに違いないと思ったのですが、ソファの陰からそっとのぞいて見たジェーンは、震え上がりました。泥棒だったのです。黒いスキー帽で顔を覆い、手袋をして引き出しをあさっていました。ジェーンは、泥棒が家中を物色して歩いている物音

に耳をそばだてました。そのとき、電話が鳴ったのです。泥棒は逃げてしまいました。もちろん、その電話は、わたしが集会所を出る直前にかけたものでした。

ジェーンとわたしがその日経験した聖霊の促しに、わたしは生涯感謝することでしょう。聖霊の促しに従って家に帰ったおかげで、ジェーンが来てほしいと思ったときに行きやることができたのです。このことに心から感謝しています。ジェーンが泥棒に見つかっていたら、どんなことになっていたか分かりません。ジェーンは守られました。そればかりでなく、この恐ろしい経験で負った心の傷も、御霊の助けによって癒されたのだと、わたしは信じています。現在ジェーンは雄々しい、立派な宣教師です。そのかけがえのない同僚は、今でも聖霊なのです。■

バーバラ・エルキンズ・キャットマルは、アイダホ州、アイダホフォールズ・アンモンステーク、アンモン第7ワードの会員です。

何が待ち受けているか、主は御存じでした

リンダ・シムズ・デピュー

だれもない家の中で、一人ひざまずき祈りました。涙があふれました。天の御父に尋ねました。「なぜ、うまくいかないのですか。」その2年ほど前から個人的な問題があり、当時住んでいた小さな町を出て新しい仕事を探す方がよいと確信していました。ところが、幾ら努力しても、いい仕事が見つけられないでいたのです。

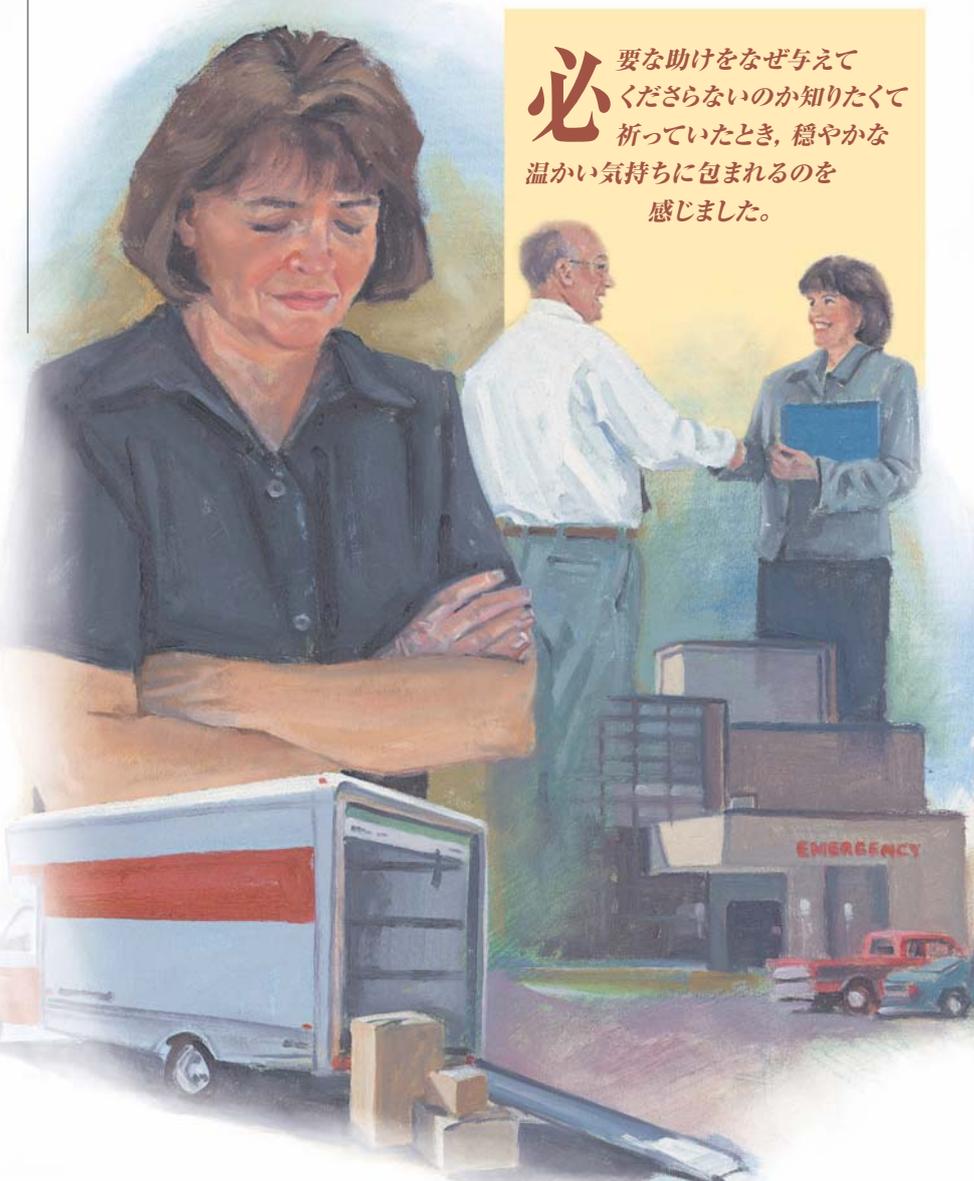
すすり泣きながら祈りました。必要な助けを与えてくださらないように思えるのですが、それはなぜなのか教え

てくださいと。すると、穏やかな温かい気持ちに包まれるのを感じたので、祈るのをやめ、そのまま、黙ってひざまずいていました。御父が御霊を通してわたしに慰めを与えておられるのが分かりました。それまでの2年間、何度も読んできた聖句の一節が心に浮かびました。わたしにとって大きな慰めとなっていた聖句です。

その一つはニーファイ第二書第4章16節から35節です。中でも特に28節の、

ニーファイが「喜べ、おお、わたしの心よ。もうわたしの敵に場所を与えてはならない」と言っているところでした。もう一つの聖句は教義と聖約第98章3節です。この聖句から、わたしの祈りは聞き届けられ、「あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために、またわたしの名の栄光のためにともに働く、と主は言」っておられることが分かって、心が安らぎました。

町を出て行きたい気持ちはまだあり



必 必要な助けをなぜ与えてくださらないのか知りたくて祈っていたとき、穏やかな温かい気持ちに包まれるのを感じました。

ましたが、このことがあってからは、心配は要らないと心から思えるようになりました。御父がともにいてくださったので、御心ならば、そこにとどまってもかまわないと思ったのです。

それからちょうど3か月後、隣の州で大学の医学部に通っていた24歳の息子が癌だと分かりました。そこで3週間、息子の入院先の病院で寝泊まりました。もしも新しい職に就いていたなら、レジャーや私用のための休暇も、病気の家族の世話をするための休暇も取れなかったことでしょう。息子のそばにいてやるためには仕事を辞めなければならず、失職という重荷まで背負い込むことになっていたに違いないのです。

主は何が待ち受けているか御存じだったため、あのときわたしの祈りに否定的な答えを下さったのだと思えなりません。

息子は化学療法を受けましたが、最初の2、3か月は、助かるのかどうか分かりませんでした。わたしは、息子が住んでいる隣の州に移る方がよいと感じました。病に侵されていながらも医学部の授業に出ようと努力している息子。その息子から遠く離れた所に住んでいることには、耐えられなかったからです。ありがたいことに、主の手に助けられて物事はうまく運び、わたしは息子の居住する地域に職を得ることができました。

その地域には、長く腰を落着けることになりました。わたしがそこに住んでいる間、息子は幼なじみの女性と結婚し、健康を取り戻し、立派に卒業して初孫の顔を見せてくれました。それに、間もなくわたしは祝福されて、長い付き合いのある、尊敬すべき素晴らしい友人と結婚しました。

「喜べ、おお、わたしの心よ。もうわたしの敵に場所を与えてはならない。」「あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために、またわ

たしの名の栄光のためにともに働く、と主は言う。」ふさわしいときに、主は天の窓を開いてわたしを祝福してくださいました。これからもわたしは、このとき受けた祝福と聖典にある慰めの言葉を心に刻んでおくつもりです。そして、これらを決して忘れることがないよう祈ります。■

リンダ・シムズ・デビューは、ジョージア州パウダースプリングステーク、ローストマウンテンワードの会員です。

主はわたしの魂を 生き返らせてください ました

セルジオ・リベイロ

わたしは1961年にブラジルで生まれ、6歳のときに末日聖徒イエス・キリスト教会のことを知りました。子供時代はとても幸せでした。しかし、1970年のクリスマスのころに非常に珍しい病気にかかってからは、家族の生活は変わってしまいました。

一時期1年ほど入院しましたが、医師には治療法が分かりませんでした。何度か主に命を救っていただいたことがあります。父がわたしの頭に手を置いて神権の祝福を力強く宣言すると、わたしは持ち直しました。あるとき父が神権の祝福を与えた後、そのふさわしい手をわたしの頭から下ろしたとき、41度もあった熱があつという間に下がってしまい、医師たちを驚かせたことがあります。このことは、今でも覚えています。このような奇跡は病気が最も重かった時期に、4年ほど続きました。

ある日、わたしたちの住んでいた町で大会が開かれました。十二使徒のマービン・J・アシュトン長老(1915-

1994年)をその大会に迎えることになっていると聞いて、両親は喜び、感謝しました。

大会の日、礼拝堂には人があふれていたため、母はアシュトン長老のそばに行くことができませんでした。がっかりしている母を見て、6歳だったわたしの弟が、人波をかき分けてどうにかアシュトン長老のところまでたどり着き、重い病気の兄を祝福してくれるように頼みました。弟は、家族のところまで来てくれるよう訴えましたが、その望みはその場ではかなえられませんでした。わたしたちは、大会の最後にアシュトン長老に会う機会があるように祈りました。

驚いたことに、説教の始めにアシュトン長老はこう言いました。「ここに着くと、お兄ちゃんを祝福してくださいと、小さな男の子がわたしに頼みました。お兄さんが重い病気にかかっているのだそうです。そこでわたしは、わたしの声の届く所におられる、すべての人の前で申し上げたいと思います。君のお兄さんは元気になりますよ。そして、この地上で伝道の業を果たすことでしょう。」

両親にとって、この言葉は慰めとなりました。両親は、このような慰めを求めて祈り続けてきたのです。また、この言葉は、苦悩と悲しみの日々からの救いでもありました。わたしたちは、新しい治療法に踏み切りました。アシュトン長老の約束が実現することを確信していたのです。その結果、わたしの人生は完全に変わりました。

19歳になると、アシュトン長老が与えてくれた約束の一部が成就し、わたしは伝道に出ました。しかし、伝道に出たのは、主のすばらしい福音を分かち合うことによって主に仕えたいという、わたしの心からの願いをかなえるためでもありました。わたしはブラジルのレシフェ伝道部で働きました。ここでは主に導かれてすばらしい家族



当 時6歳だった弟は、人波をかき分けてアシュトン長老のところへ行き、わたしを祝福してくれるよう頼みました。

に出会い、主の手に使われる者となって人々を悔い改めに導くことができました。

伝道から帰ると、教会の中で一緒に育った、若く美しい女性と結婚しました。ところが、最初の子供が生まれたとき、主はその子をみもとに呼び寄せてしまわれました。わたしの人生に、また新たな悲劇が訪れたのです。信じられませんでした。しかし、信仰や証は、このような経験を通して築かれていくものなのだということが、わたしには分かっていました。

現在、妻とわたしは5人の子供に恵まれ、素晴らしい家庭を築いています。長男は伝道に出る準備をしており、わたしは所属するワードの監督を務めています。以前患っていた病気の症状が出ることは、もうありません。

妻とわたしの証の土台となっているのは、神権の力に対する信仰と、家族のきずなが永遠であるという信仰、それに詩篇の第23篇にある教えです。ここで、ダビデは次のように言っています。

「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。

主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。

主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。

たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れません。

あなたがわたしと共におられるからです。

あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。

あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。
わたしの杯はあふれます。

わたしの生きているかぎりは必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。

わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」■

セルジオ・リベイロは、ブラジル・カンピーナスステークのジャルジン・ド・ラーゴワードの会員です。



氷上の夢



教会機関誌

シャンナ・ガズナビ

**9歳のとき、クリスはアイスホッケー用のスケート靴を
フィギュアスケート用のものに替えました。今は、そのスケート靴を
伝道用の革靴に履き替えています。**

「見よ、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの理由で遣わしたのである。すなわち、あなたがたが従順であるため、またあなたがたの心が来るべきことについて証^{あかし}を述べるように備えられるためである。」
(教義と聖約58:6)

クリス・オブザンスキーは、3年間アイスホッケーに取り組んだ後、自分はホッケーに向いていないと感じました。9歳のときにホッケー用のスケート靴をフィギュアスケート用のものに替え、アイスダンスの道を歩み始めました。やがてすばらしいアイスダンサーとして活躍しますが、いつも滑らかに来たわけではありません。

「フィギュアスケートを覚えようと懸命に取り組みました。でも、いつもトピーック〔訳注——フィギュアスケート靴の刃の先端〕でつまずいてしまうのです。」新しいことに挑戦するのは簡単ではありませんでしたが、クリスはアイスダンスこそ自分がほんとうにやりたいスポーツだと感じまし

た。クリスは笑いながら次のように語ります。「それに、汗臭いホッケー選手といるよりも女の子とスケートする方がいいですからね。」

クリスには大きな夢がありました。パートナーとともに全米ジュニア選手権で第2位、全米選挙権で第3位、中国で開かれた国際大会では第1位を獲得したクリスは、2006年の冬季オリンピックに出場し、21歳になってから伝道に出るつもりでした。しかし、すべてが順調に進んでいた18歳のある日、問題に直面したのです。

「心からアイスダンスを楽しめなくて、思うように上達しませんでした。」クリスはこう回想します。「無理に滑ろうとしているだけで、限界を感じていたのです。そこで、こう祈りました。『主よ、どうしたらいいのですか。』」

祈りの答えの一部は、監督に相談したときに与えられました。監督は、伝道を延期しようとしていることについて祈るよう勧めたのです。クリスはこう話しています。「実を言うと、監督の勧告に聞き従いたいとは思っていませんでした。けれども生活はだんだんと、主に尋



クリスはずっと伝道の計画を立てていましたが、予定よりも早く伝道に出るべきだと感じました。

コーチや
パートナー(下)
は、クリスが
伝道に行く決意を
したときに残念に
思いましたが、心から
クリスを応援して
くれました。

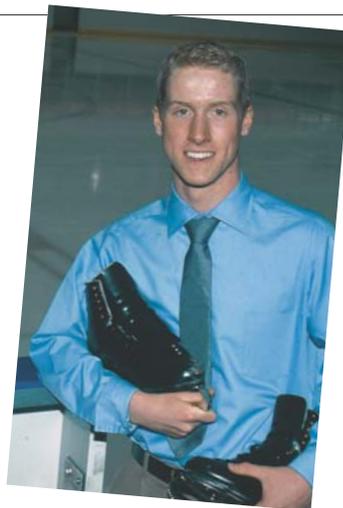
ね求めて、耳を傾けなければ
ならない状態になっていきま
した。」

もう一つの答えは、ある
聖餐会^{せいさん}で与えられました。
若い男性会長の伝道経験を
聞いていると、御霊^{みたま}がこうさ
さやいたのです。「『クリス、
19歳になったら伝道に出な
さい。さもなければ、生活が大
変になりますよ。』あまりにもはっきりと聞こえた
ため、だれかがいるのではないかと思って後
ろを振り返ったくらいです。すると、同じ気持
ちをさらに10倍強く感じたので、伝道に出な
ければならないと思いました。』

伝道に向けて

その晩、クリスはアイスダンスのパートナーと
コーチたちに電話し、
伝道に出ることを知ら
せました。彼らとトレ
ーニングを始めたころ、
いつかは伝道に出ると
伝えていました。しか
し、だれもクリスが伝
道に出ることを望んで
はいませんでした。少
なくともあと数年はスケートを続けてほしか
ったのです。パートナーやコーチはがっかりしま
した。それでもクリスはこう述べています。
「彼らはわたしが伝道に出ることを応援
してくれています。そのことをとて
も感謝しています。」

クリスは自分が下
した決断やその前途を思
うと穏やかな気持ちに
なります。「天のお
父様があの促し
を下さったこと
に感謝していま
す。でも、伝道に出
ることを決めてから、と
ても大変な日々が続いてい
ます。サタンがあらゆる方法で自



分の道に引きずり込まうとす
るのです。」

クリスは恐れや誘惑と闘う
ために、デラウェア州のスケ
ートリンクでトレーニングに励
んでいたときと同じ熱意をも
って聖文を読み、祈りました。
1日に少なくとも2回聖文を学
び、少なくとも3回心を尽くして
祈りました。クリスはこのように

語ります。「聖文研究と祈りによって、とても守
られました。」また、実家のあるソルトレーク中
央ステーク、第13ワードに戻って来て、良い友
人や家族に囲まれたことによって助けられた
と言います。

新しいルール

アイスダンスには、多くの規定や禁止されてい
る動きなど、たくさんのルールがあります。成功
するには高い創造性とダンスの才能が必要で
す。クリスはアイスダンスの経験が伝道にも生か
せると考えています。アイスダンスでは、パート
ナーと協力することを学び、厳しいルールに従
い、長期間一つのことに専念するからです。

クリスにとって、バルト諸国伝道部(ロシア
語圏)への召しは、胸躍る知らせでした。特に、
伝道後にアイスダンスに復帰したい場合、ロシ
ア語を話せると都合がいいのです。(多くの選
手やコーチはロシア語を話します。)クリスは、
いつかコーチにもなりたと思っています。し
かし現在のところは、「ただ人々に福音を伝え
たい」のです。

引き続き導かれる

伝道に出るよう促される以前にも、クリスは
生活の中で導きを求め、主に導かれたことが
あります。16歳のとき、あるスケートパート
ナーと別れ、苦しんでいました。クリスはそのと
きのことをこう語ります。「父が祝福してくれ
たのです。祝福の中で父は、御霊がともにいて、慰
めてくれると言いました。」

祝福の後、クリスは教義と聖約第58章を読
むべきだと感じました。2節から7節までの言
葉は彼の生活に大きな変化をもたらしました。



「まさに自分のために書かれている気がしました。これらの聖句に記されている事柄は、すべてわたしの人生で成就しました。また、これからも成就することでしょう。この聖句を通して、多くの慰めを受けました。」

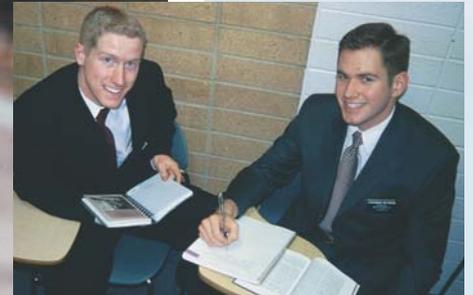
教義と聖約第58章で受けた勧告に従うために、クリスは主が命じられた時期に伝道へ行き、バルト諸国で救い主と福音について証する準備ができています。伝道地では、トピックやパートナーを替える以上の困難が待ち受けていることを知っています。しかし同時に、自分が導きを求めれば主がこたえてくださることも知っているのです。■

■

シャンナ・ガスナビはブリガム・ヤング大学第2ステーク、ブリガム・ヤング大学第61ワードの会員です。

宣 教師訓練センターで同僚のウィルキンソン

長老(下)とともに数週間過ごした後、オブザンスキー長老は次なる氷の世界、バルト諸国伝道部に赴任しました。そして、主がすべてにおいて導き続けてくださることを知っています。





扶助協会に感謝

わたしは教会の宣教師として、人々が聖霊の影響を感じられるように努めていました。いつだったか同僚とわたしは、ある青年にゴードン・B・ヒンクレー大管長のビデオを見せる機会がありました。その青年の心に、御霊が深い影響を与えました。

わたしは最近、中央扶助協会会長の総大会説教を読みました。それは末日聖徒の若い姉妹であるわたしにとって、とても重要な話でした。わたしたちの間に姉妹同士のきずながあることに感謝しています。教会の指導者と、指導者が大会で語る教えは、わたしが今善い姉妹になるために、また将来善い母親になれるように、大きな助けを与えてくれます。

ブラジル・サン・ジョアン・ダ・ボア・ビスタ
ステーキ、ハビタシオナル支部
ジュリアナ・ロサ

『リアホナ』——強さの大いなる源

教会の会員となってから3年がたちますが、バプテスマを受けたときから『リアホナ』を欠かさず読んでいます。『リアホナ』はわたしにとって、強さの大いなる源となっています。末日聖徒イエス・キリスト教会の偉大な業が、真実であると確信させてくれるからです。靈感あふれる指導者がいて、彼らのメッセージを通して毎月霊的に再生されることを、天の御父に深く感謝しています。

コロンビア・バストステーキ、
イピアレス第2ワード
マーサ・カストロ

強まったイエス・キリストへの証^{あかし}

2、3か月の間、わたしは『リアホナ』を人から借りていました。自分で購読を申し込んだ『リアホナ』を受け取ったのは、今月になってからです。自分の『リアホナ』を持つことができ、うれしいです。『リアホナ』は福音について靈感を与え、教えてくれるからです。『リアホナ』は、イエス・キリストと天の御父への信仰を強めてくれます。教会

が真実であることを知ることができ、わたしは幸せです。末日聖徒であることをうれしく思います。

フィリピン・ルセナスティーク、
ルセナ第2ワード
メアリー・アン・C・パダ

教会のすばらしい友達

2001年5月6日に教会員になりました。教会はわたしの人生で最も大切な存在です。わたしは今16歳です。家族の中で教会員はわたしだけです。教会の若い男性のプログラムには最高の友達がいます。教会にはまた、わたしのことをほんとうによく助けてくれる大人や、この上なく正直で愛情に満ちた子供たちがいます。

ベネズエラ・シウダーオジェダステーキ、
オブレロワード
ダグラス・エドアルド・ディアス・ルイス

写真/ウェルデン・C・アンダーセン。写真はイメージです。

家庭の夕べの成功談をお寄せください

すばらしい家庭の夕べができたという経験はありませんか。独創的なレッスンのアイデア、奉仕、活動、証会、家族会議など、あなたの家庭で成功していることを教えてください。あなたの意見を Family Home Evening Successes, *Liahona*, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USAまで、または Eメールで、cur-liahona-image@ldschurch.org までお送りください。



「**モ**ルモン書はかなめ石です。
なぜなら、永遠の原則と
教えを確立し、互いに
結び合わせ、救いの基本的な
教義を完成するからです。
それは、聖典という王冠の頂を
飾る宝石です。」第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト
「わたしたちの宗教のかなめ石」
2ページおよび「モルモン書早見表」
18ページ

